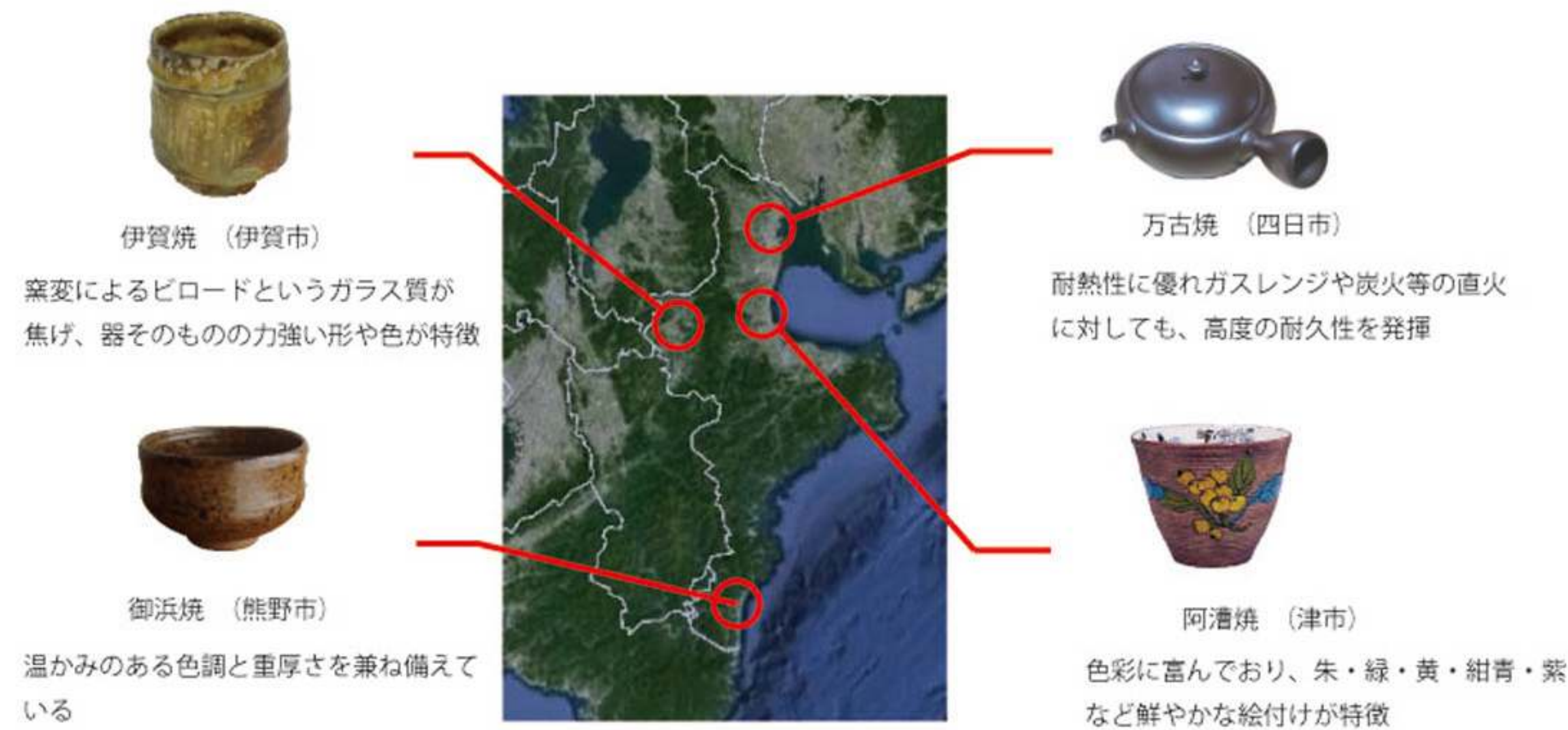


出土しつづける巨大陶器

～県民が作る陶芸美術館～

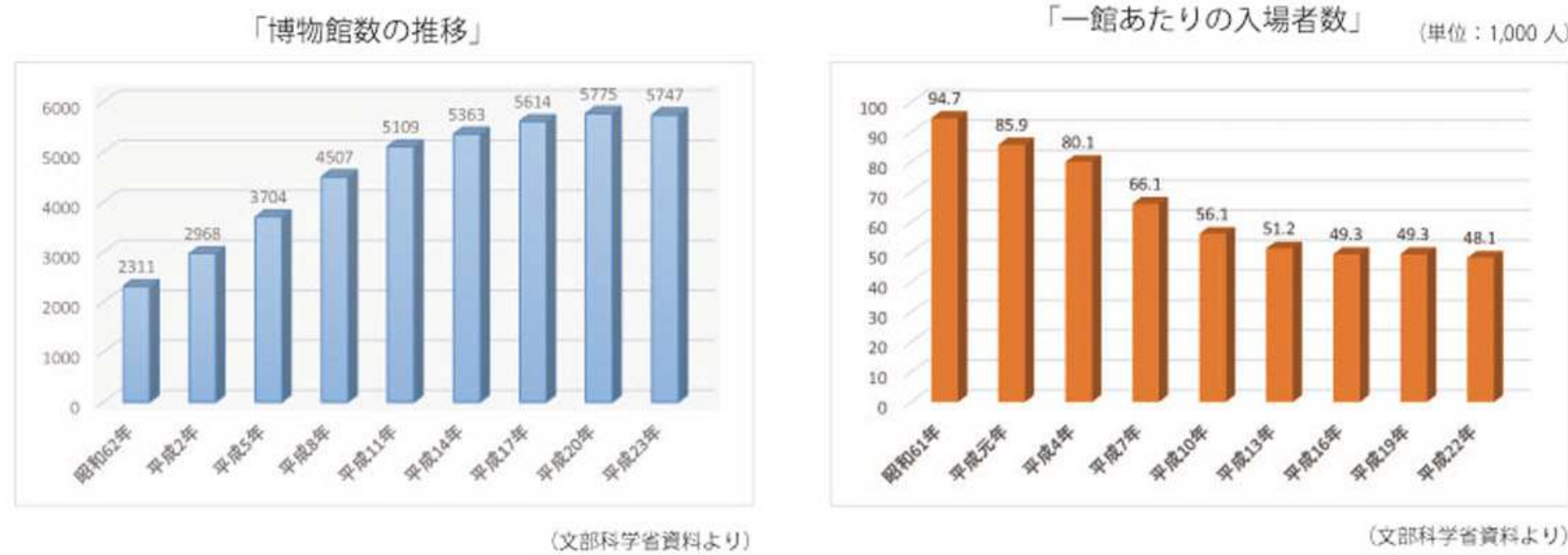
1. 三重県において陶芸文化を学び体験できる場



三重県には古くから焼物の産地があり、伊賀には伊賀の、四日市には萬古焼の美術館があるが三重県の焼物を包括するような美術館は存在しない。よって三重県下の焼物を展示し、かつ陶芸文化を総合的に学び体験できるような施設が欲しい

2. これからの美術館はどうあるべきか

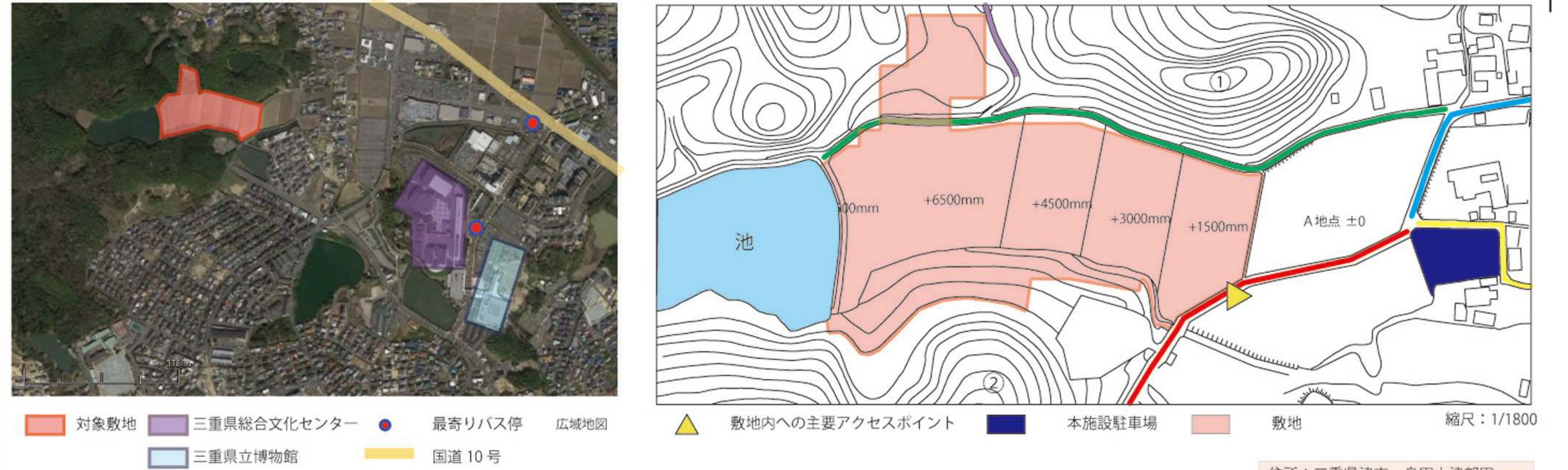
美術館は厳密いうと「美術博物館」であり「博物館」の一つである。年々博物館の館数は増え続けているが一館あたりの入場者数は減っている。その結果、中には閉館に追い込まれる博物館もある。同様のことが美術館にも当てはまる。



- 現状を打破するために、昨今の美術館はさまざまな解決策を模索してきた。
- ・集客のために改装 (レストラン・カフェ・ミュージアムショップを付加するなど)
 - ・アミューズメント化 (堅苦しさを排除しアミューズメント性を高める)
 - ・企画展示の多様化 (集客のために専門性にこだわらない)
 - ・多様なイベント (コンサート・茶会など)
 - ・ミュージアムグッズの開発 (オリジナルキャラクター)
 - ・観光資源化 (町おこしや村おこしへの利用)

これらを受けて、現代の美術館に対する解決策として、先に述べた試みを採用しつつ、「利用者が作っていく美術館」というコンセプトを加えることにより、新たな美術館の形態の提案をする。

3. 環境に恵まれた地の利を活かす



対象敷地は三重総合文化センターから徒歩5分という場所に位置する。今年(平成26年4月)に三重県立博物館がオープンし、文化施設が集約している場所である。その流れを汲むことに加え、自然豊かな穴場ともいえるこの敷地を選定した。今回企画する陶芸美術館を加えることにより、この一帯がさらなる県の文化の中心地になることが期待できる。

地点Aから池のほとりである地点Bまでの高低差は11500mmである。地点Aから地点Bに向かい段階的に高くなっていき、棚田を形成している。
敷地北側に位置する山の高さ 22,100mm (Aより) 勾配 35.5%
南側に位置する山の高さ 30,800mm (Aより) 勾配 21.2%



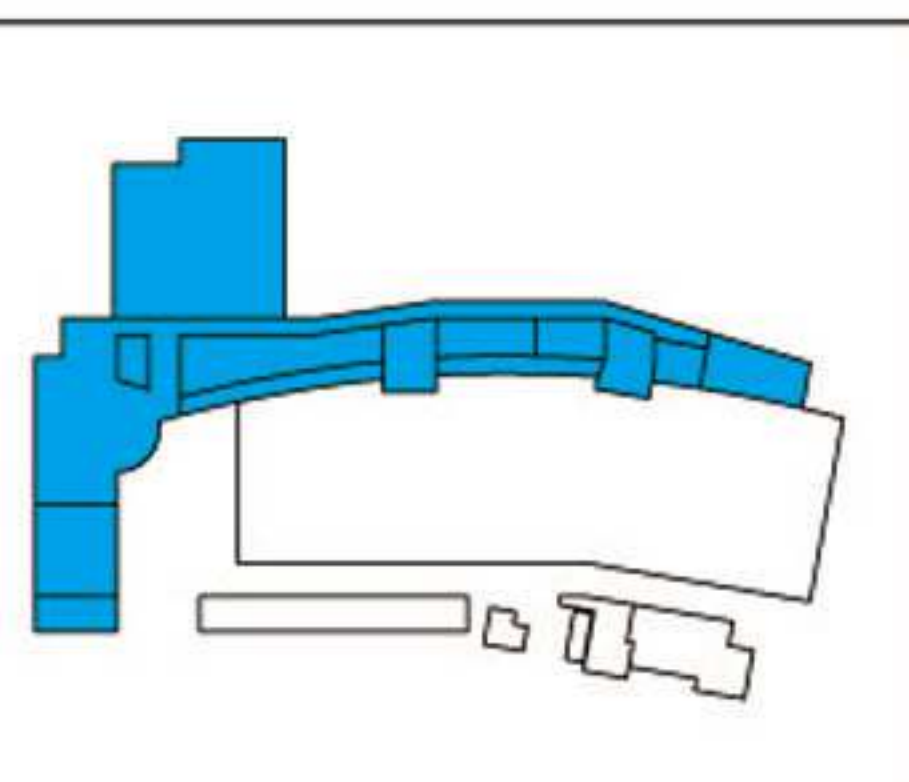
機能及び諸面積

陶芸美術館 + 交流センター + 陶芸体験教室

敷地面積：27,888.68m² 建蔽率：26.53%
 建築面積：7,399.96m² 容積率：37.66%
 延床面積：10,502.47m²

陶芸美術館

(延床面積 8,880.98m²)



展示部門

- 企画展示室 353m²
- 県民ギャラリー 94m²
- 常設展示 1 262m²
- 常設展示 2 183m²
- 常設展示 3 185m²
- 常設展示 4 131m²
- 貸しブース 40m²
- 県民展示スペース 151m²

共用部門

- ミュージアム ショップ 75m²
- レストラン 233m²
- 図書スペース 182m²

管理部門

- 事務室 121m²
- 学芸員室 97m²
- 館長室 40m²
- 書庫 88m²
- 会議室 1 42m²
- 会議室 2 42m²
- リフレッシュルーム 26m²
- 夜勤室 17m²

収蔵部門

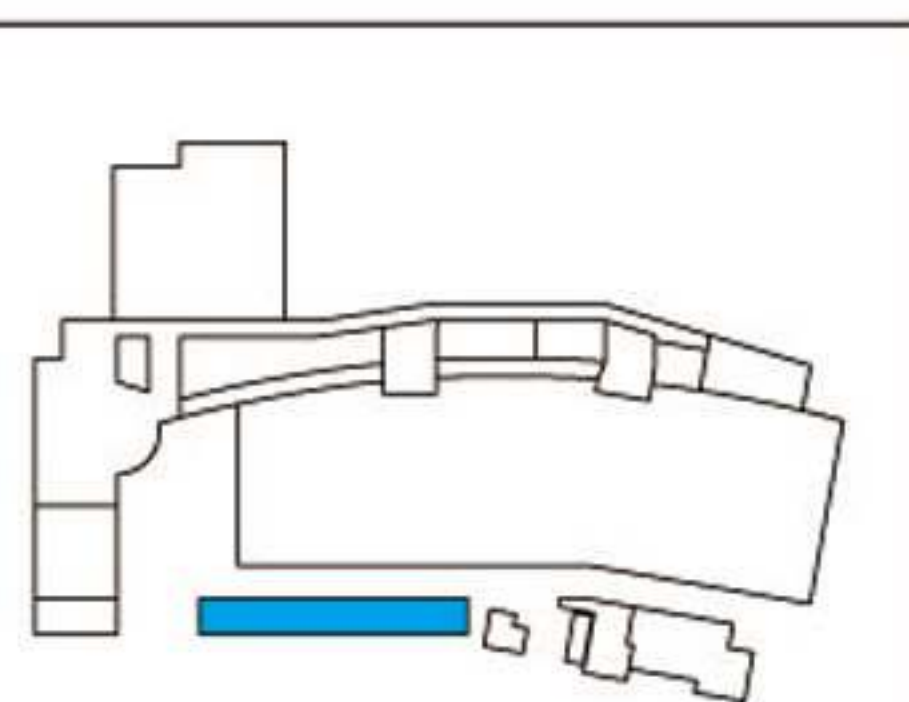
- 荷解室 212m²
- 作業室 105m²
- 一時保管庫 68m²
- 荷卸室 86m²
- 前室 98m²
- 収蔵庫 1 266m²
- 収蔵庫 2 170m²

設備機械部門

- 空調機械室 248m²
- 電気室 91m²
- 発電機室 72m²

交流センター

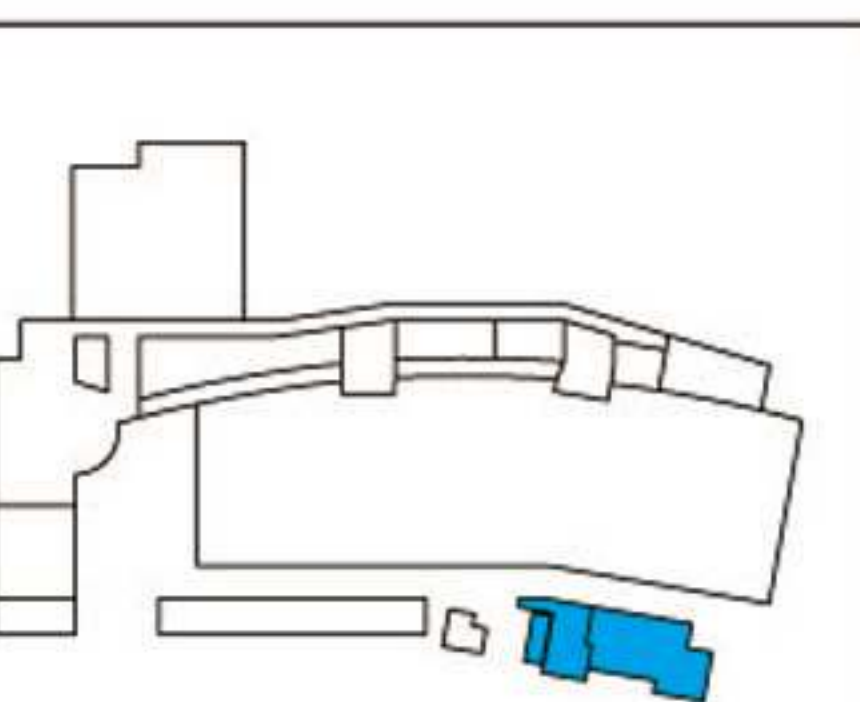
(延床面積 925.47m²)



- セミナー室 1 50m²
- セミナー室 2 50m²
- 和室 69m²
- 調理室 69m²
- ラウンジ兼
フォトギャラリー 102m²

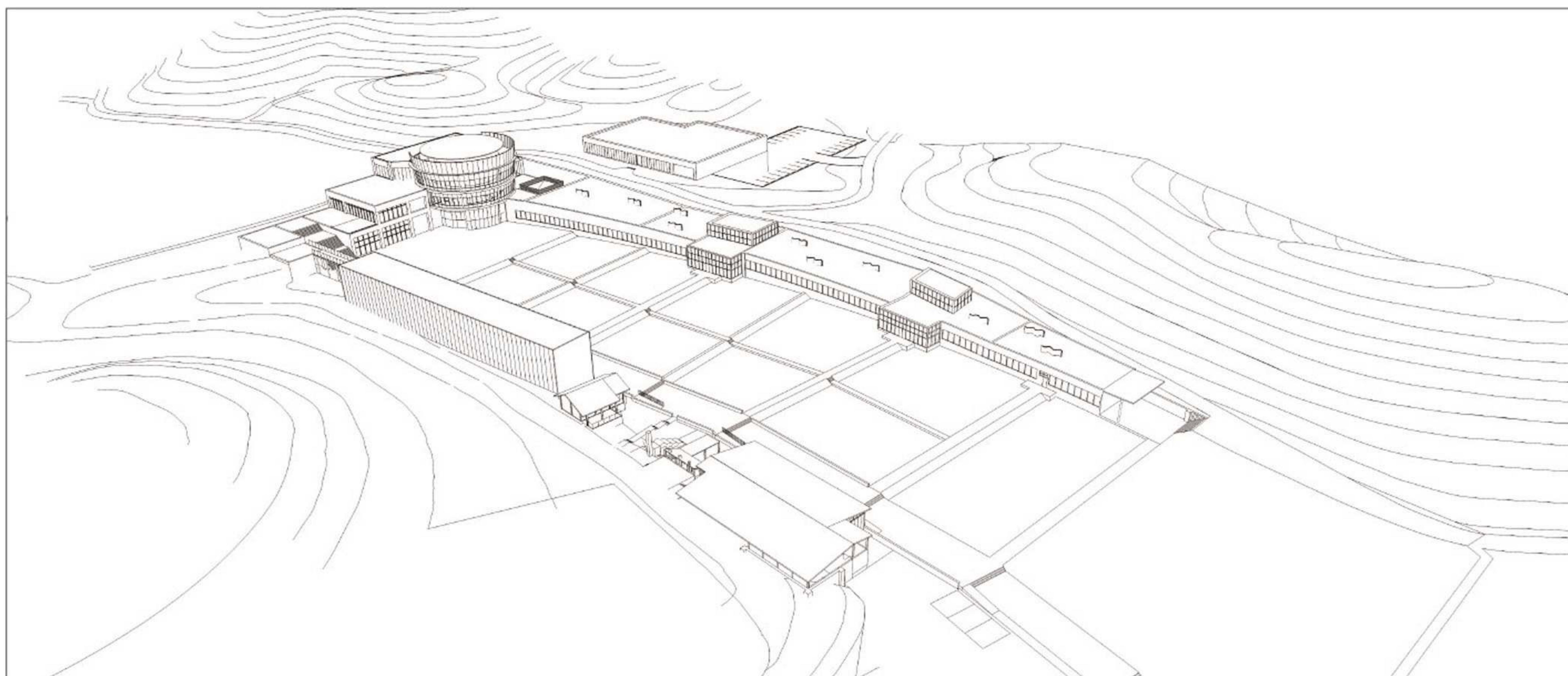
陶芸体験教室

(延床面積 618.46m²)



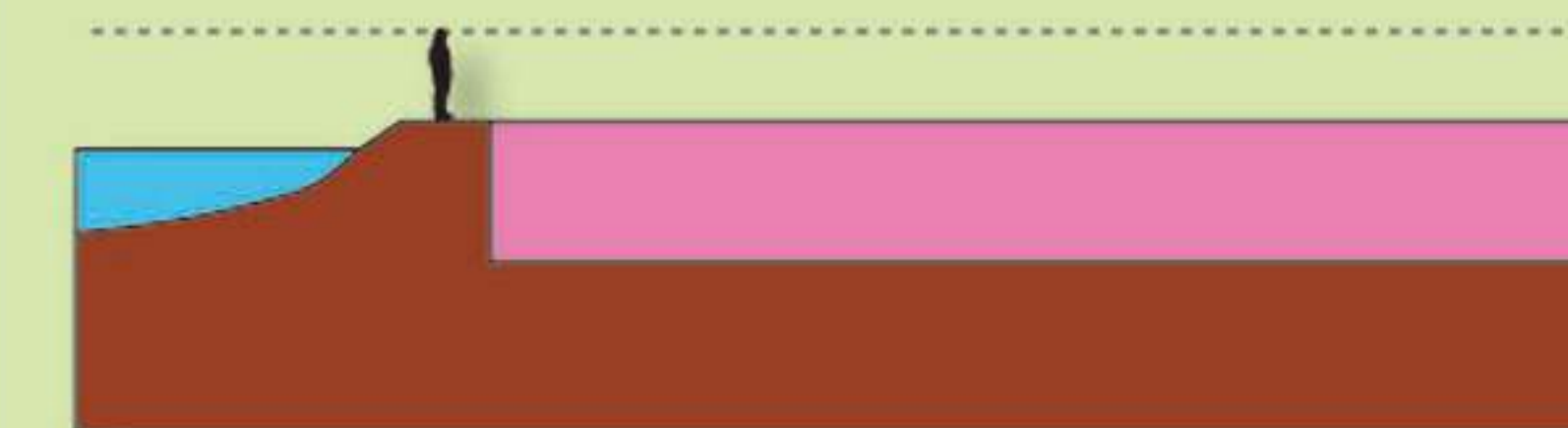
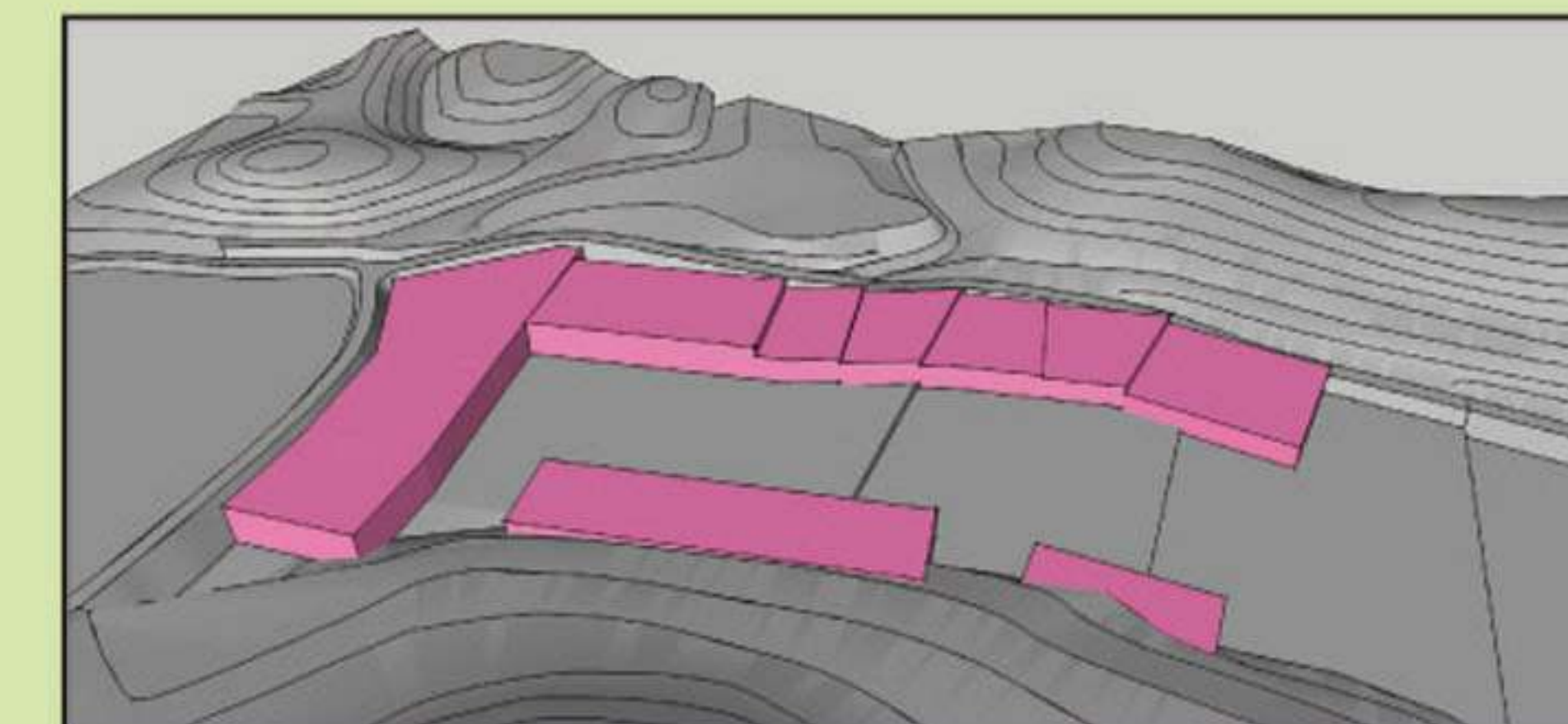
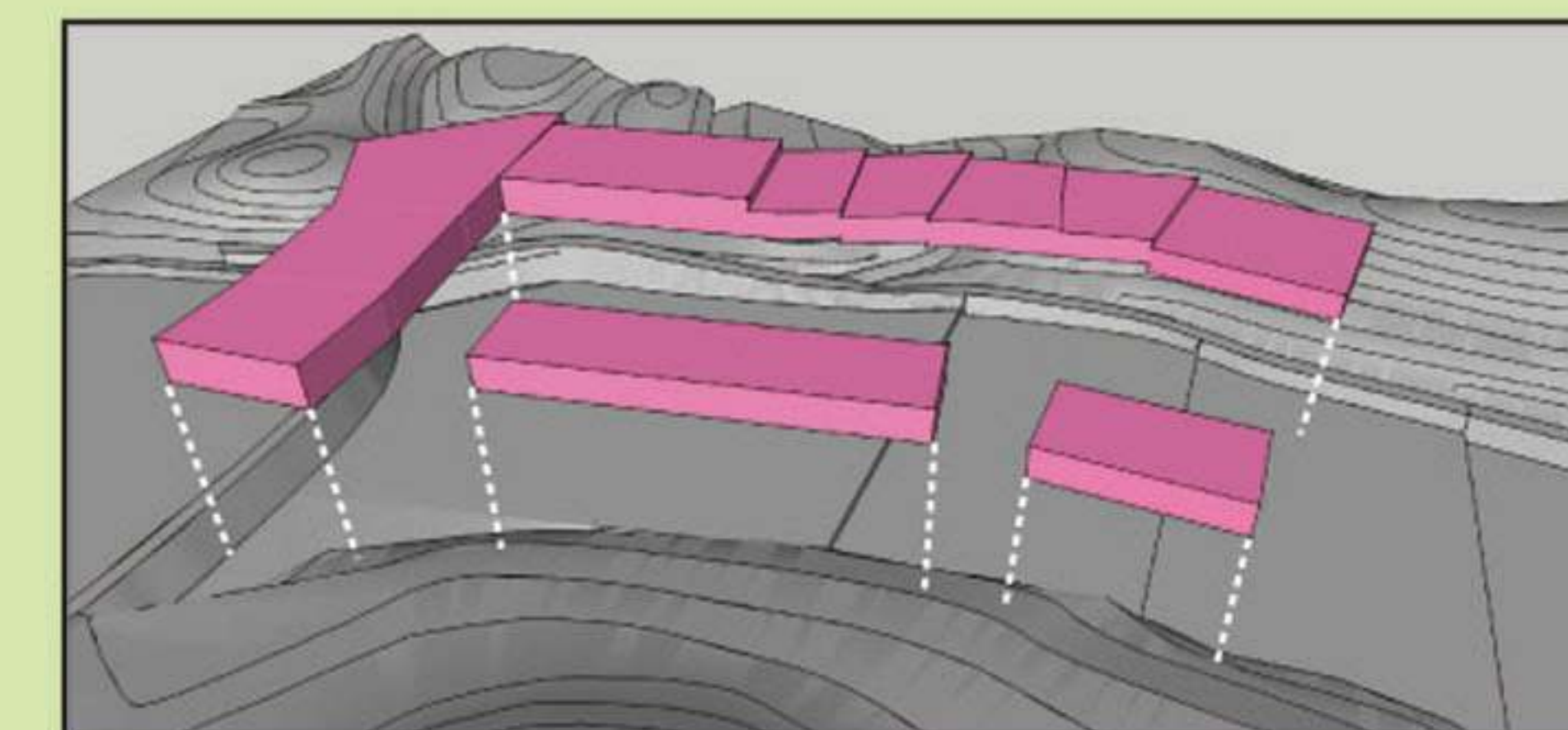
- 体験スペース 130m²
- 土練室・陶土保管室 33m²
- 汚水処理室 16m²
- 釉薬室 25m²
- 電気窯室 16m²
- 事務室 33m²

- まき割り兼
木材保管スペース 80m²
- 屋外小窯三基 16m²
- 屋外連続窯 42m²
- 屋外作陶スペース 53m²



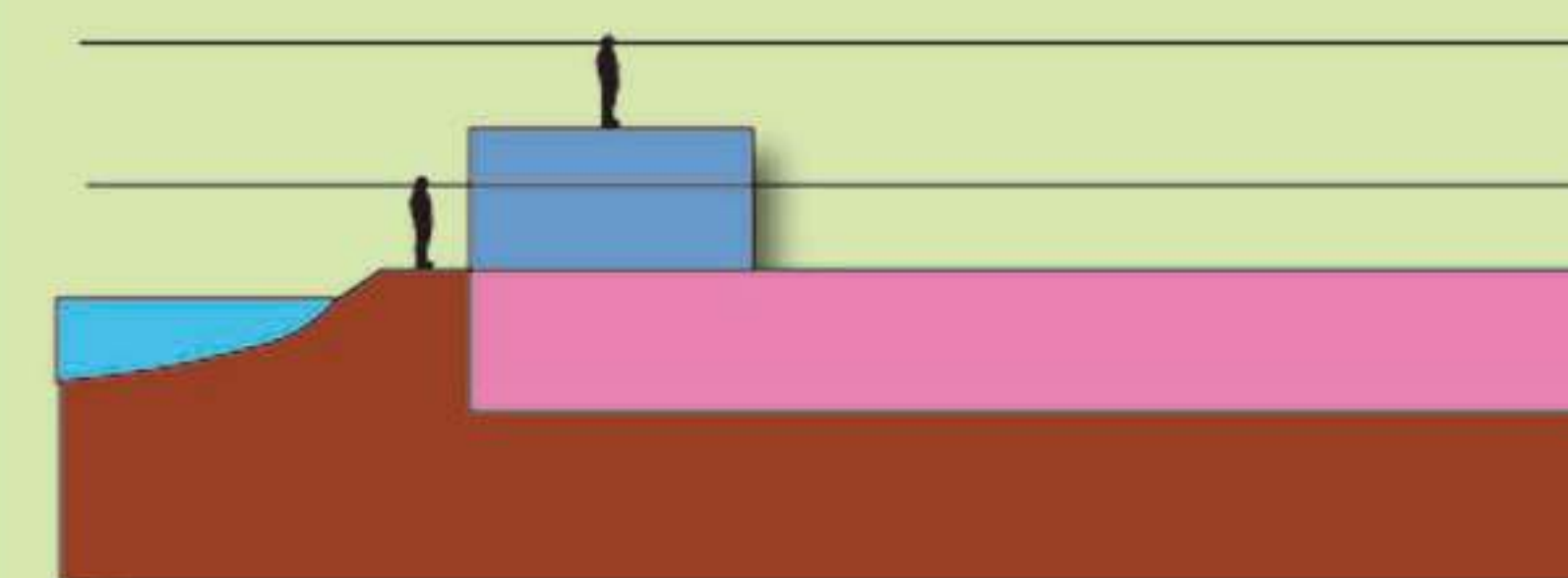
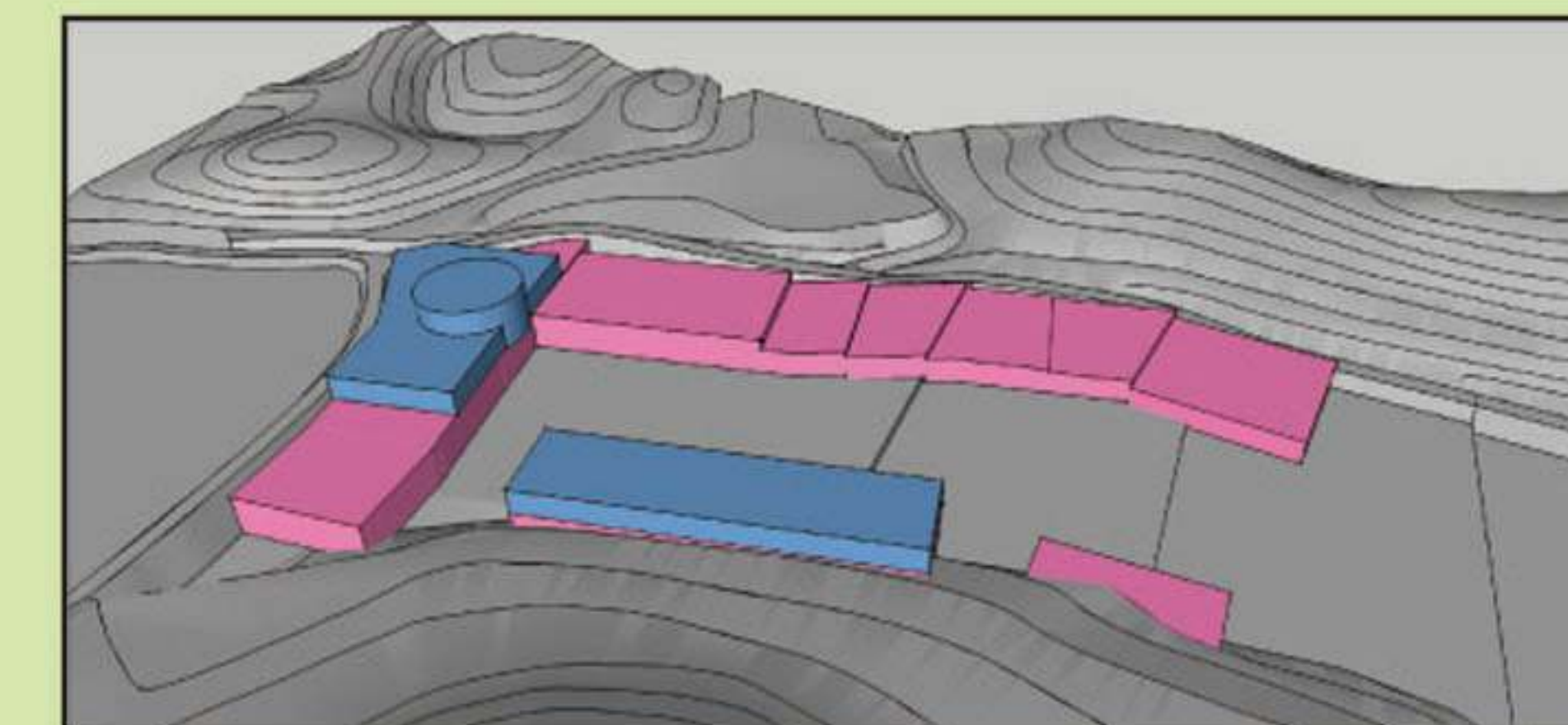
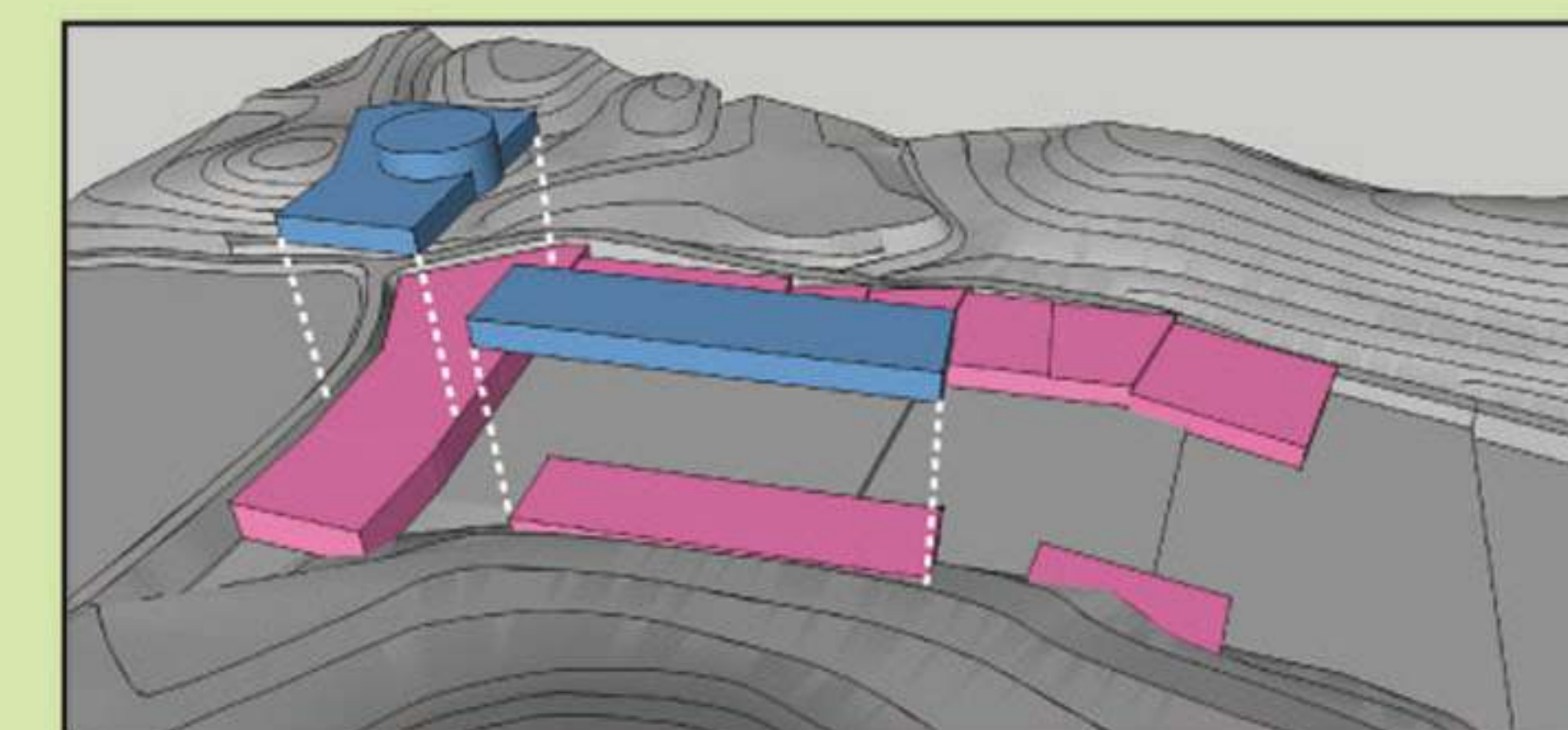
建物形態について

STEP1



現状の田んぼをそのままに残し、建物は
 景観の妨げにならないように北と南にあ
 る挟まれた山に埋もれるよう配置

STEP2



池のほとりの部分を高くすることにより、
 池への眺望および津市街への眺望をより
 よくする

企画の三本柱を受けてのコンセプト



『自作陶器を使う』



『陶芸の知識を身に付ける』



『県民が作り上げていく』



『思い出となる場所』



『陶芸を通じた交流』

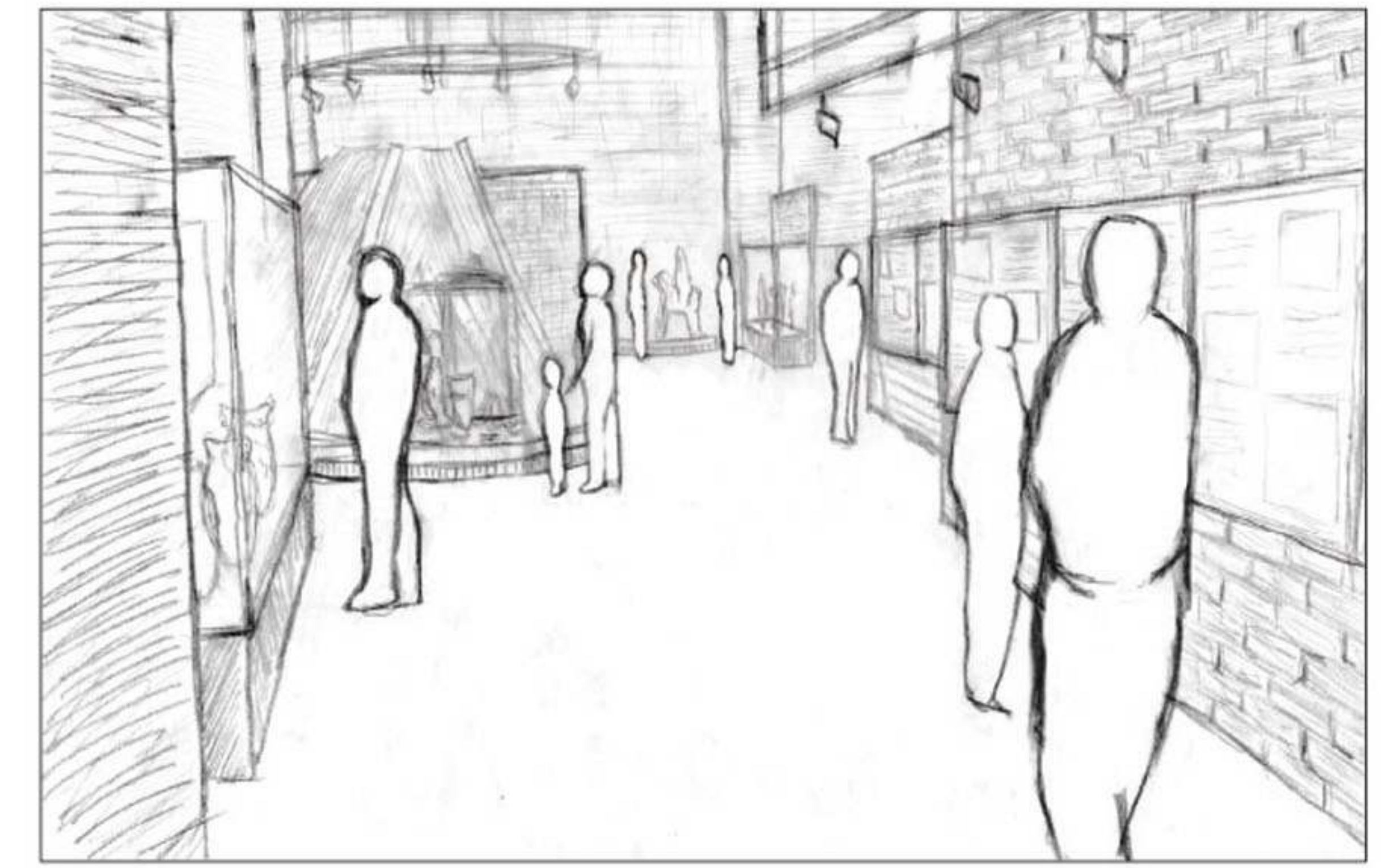
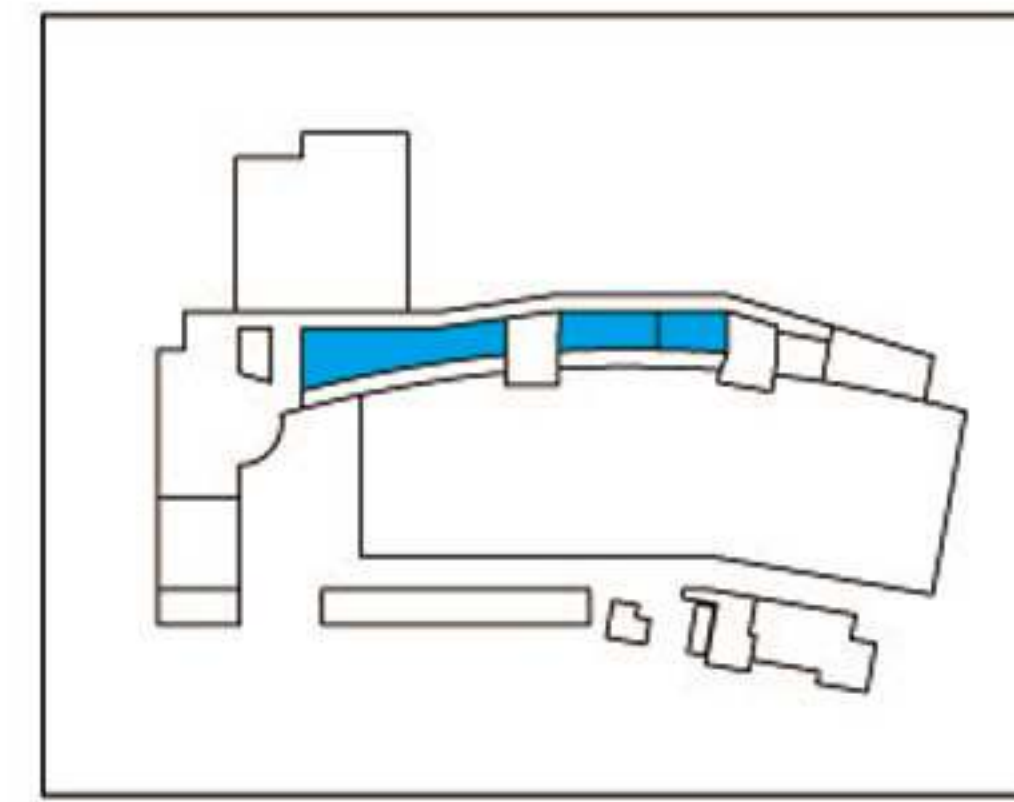


『自然の恵みを楽しむ』



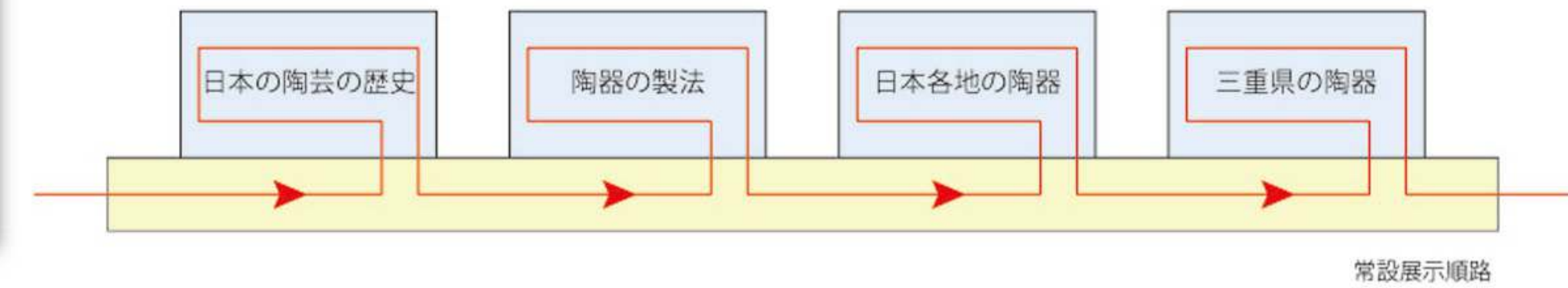
『景観を大切に』

■陶芸美術館の概要

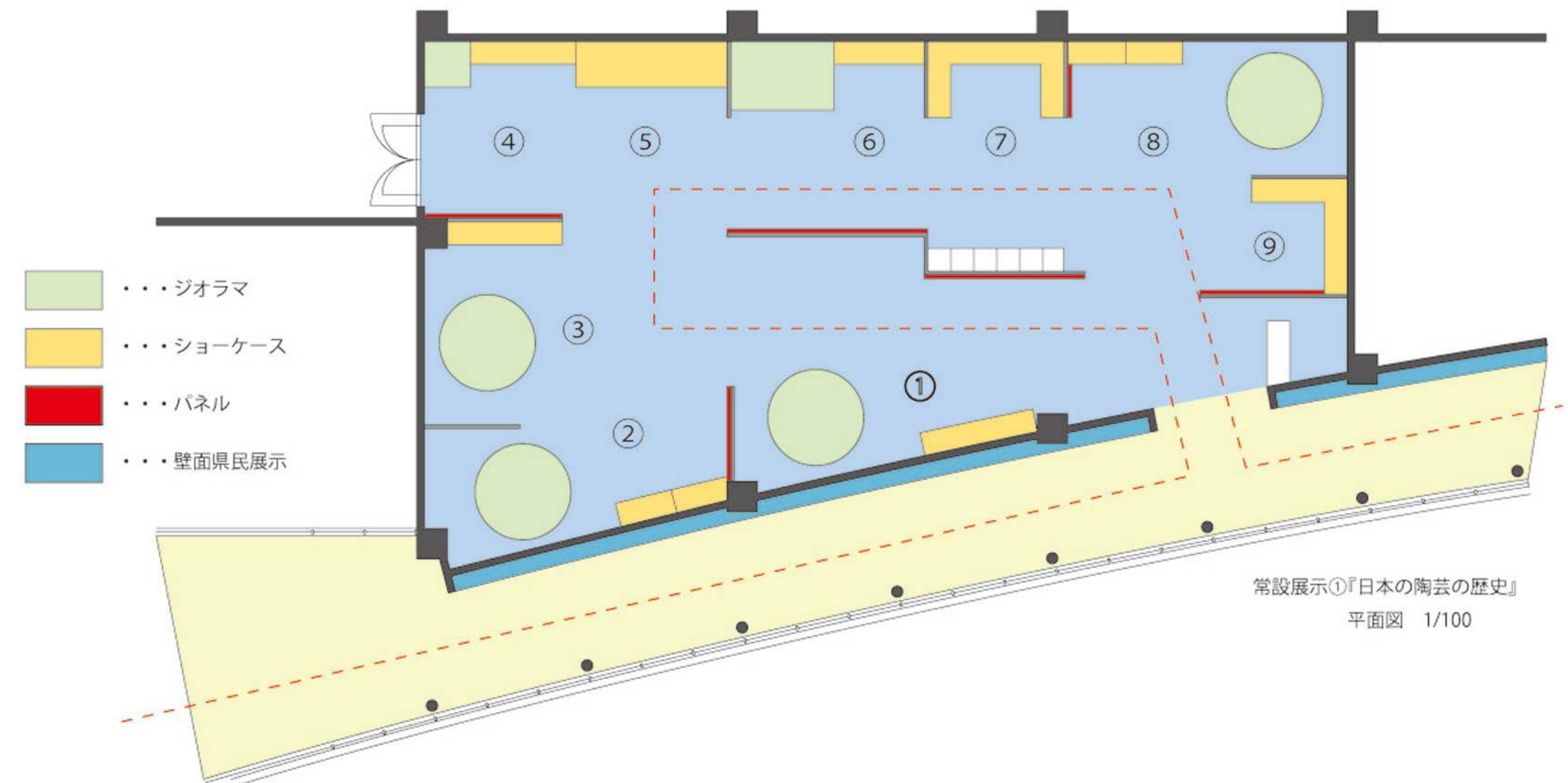


常設展示 内観

本施設美術館の常設展示は、「日本の陶芸の歴史」、「陶器の製法」、「日本各地の陶器」、「三重県の陶器」という順序で陶芸について体系的に学べるようになっている。
展示手法としては、ジオラマを用いた再現展示や実際に焼物の素材（釉薬の原料となる岩石、陶土の違い）に触れることができる体験型の展示を採用する。



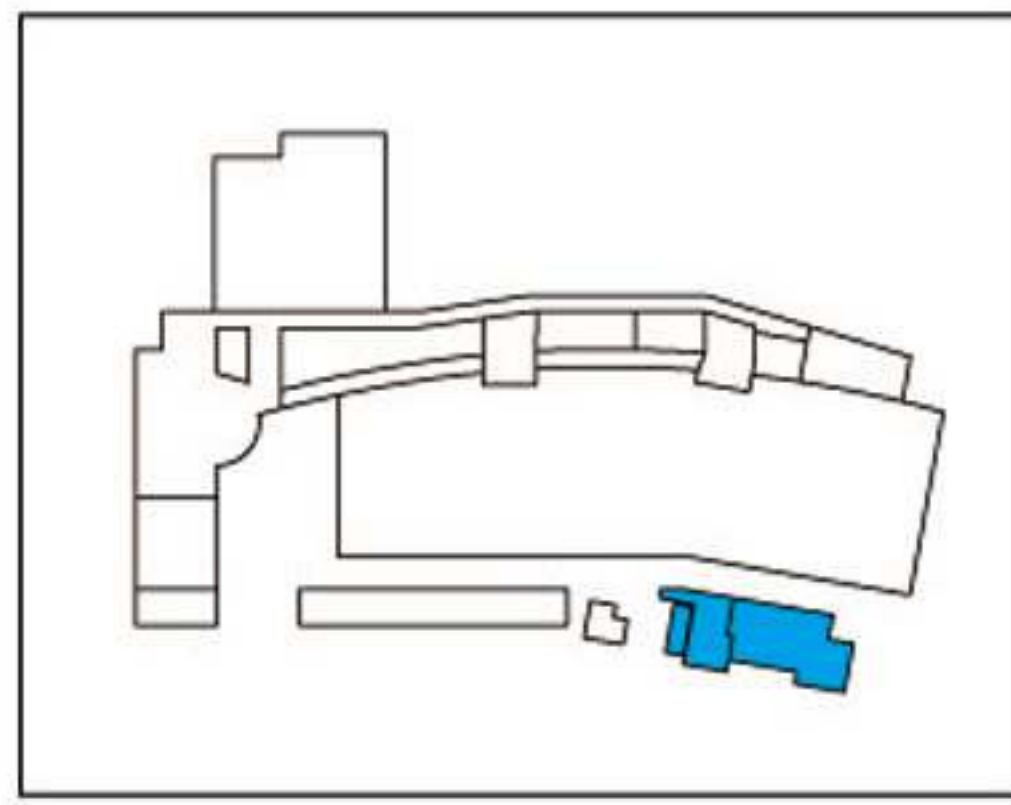
※展示室一例：「日本の陶芸の歴史」



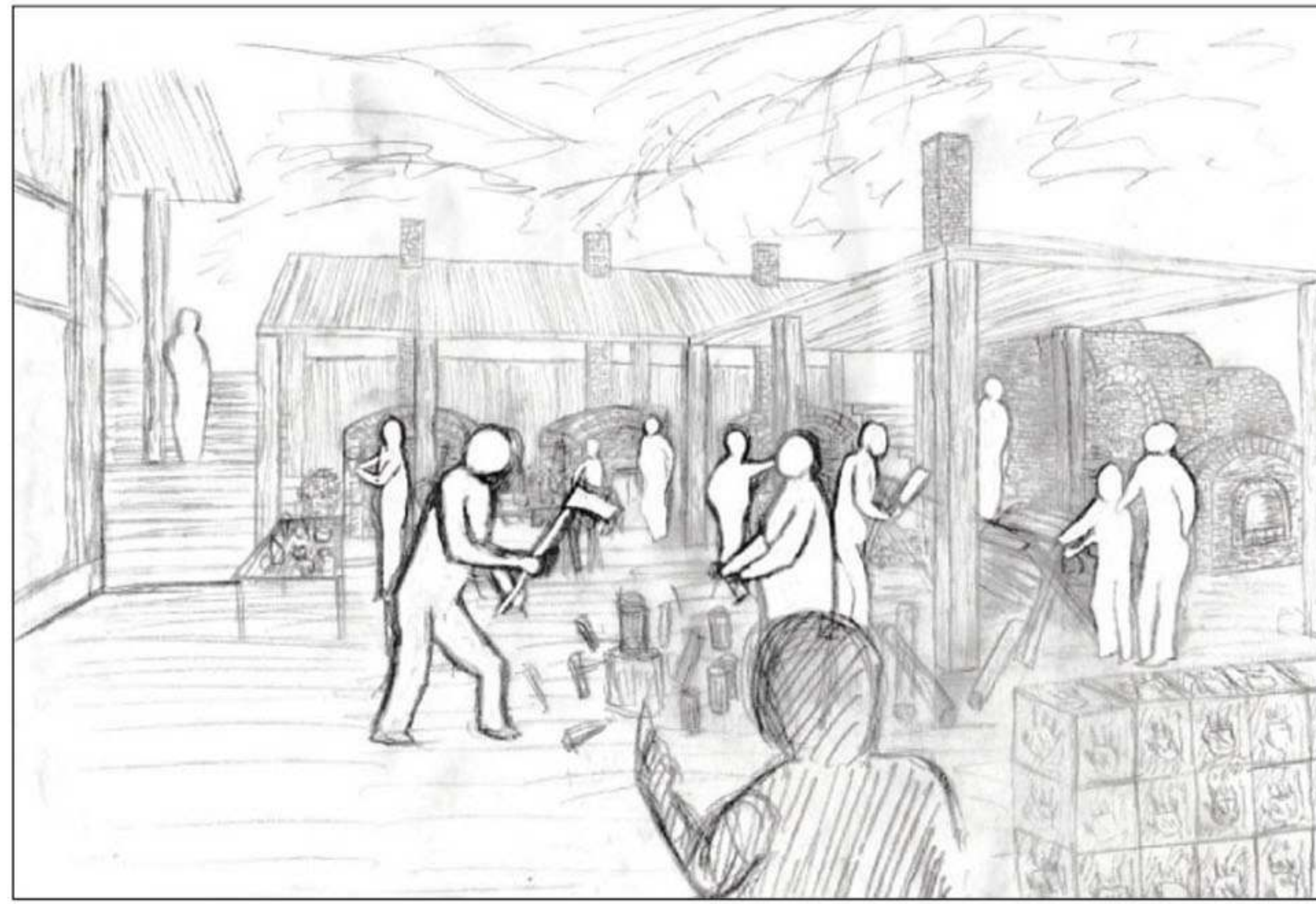
- ジオラマ
- ショーケース
- パネル
- 壁面県民展示

- | | | |
|--|---|-------------------------------|
| ① 縄文時代： 竪穴住居（ジオラマ）
縄文土器
パネル | ④ 奈良・平安時代： 寺における瓦（ジオラマ）
中国式の器
パネル | ⑦ 江戸時代： 伊万里焼、九谷焼
パネル |
| ② 弥生時代： 稲作における土器の使用（ジオラマ）
弥生土器
パネル | ⑤ 鎌倉・室町時代： 六古窯の各地陶器 | ⑧ 明治時代： 土管の製法（ジオラマ）
陶器製の便器 |
| ③ 古墳・飛鳥時代： 祭事における埴輪（ジオラマ）
埴輪、須恵器 | ⑥ 安土・桃山時代： 茶室における茶器（ジオラマ）
茶碗
パネル | ⑨ 現代： ファインセラミックス |

■自然の中での作陶



陶芸体験教室では作陶・薪割りを体験でき、体験教室ではめずらしい薪窯を使い焼くことができる。一度に80人が体験でき、県内では最大規模である。ゆえに団体の受け入れも可能である。薪として使用する材木は、施設周辺の杉及び竹林を間伐した際に出る間伐材を用いる。



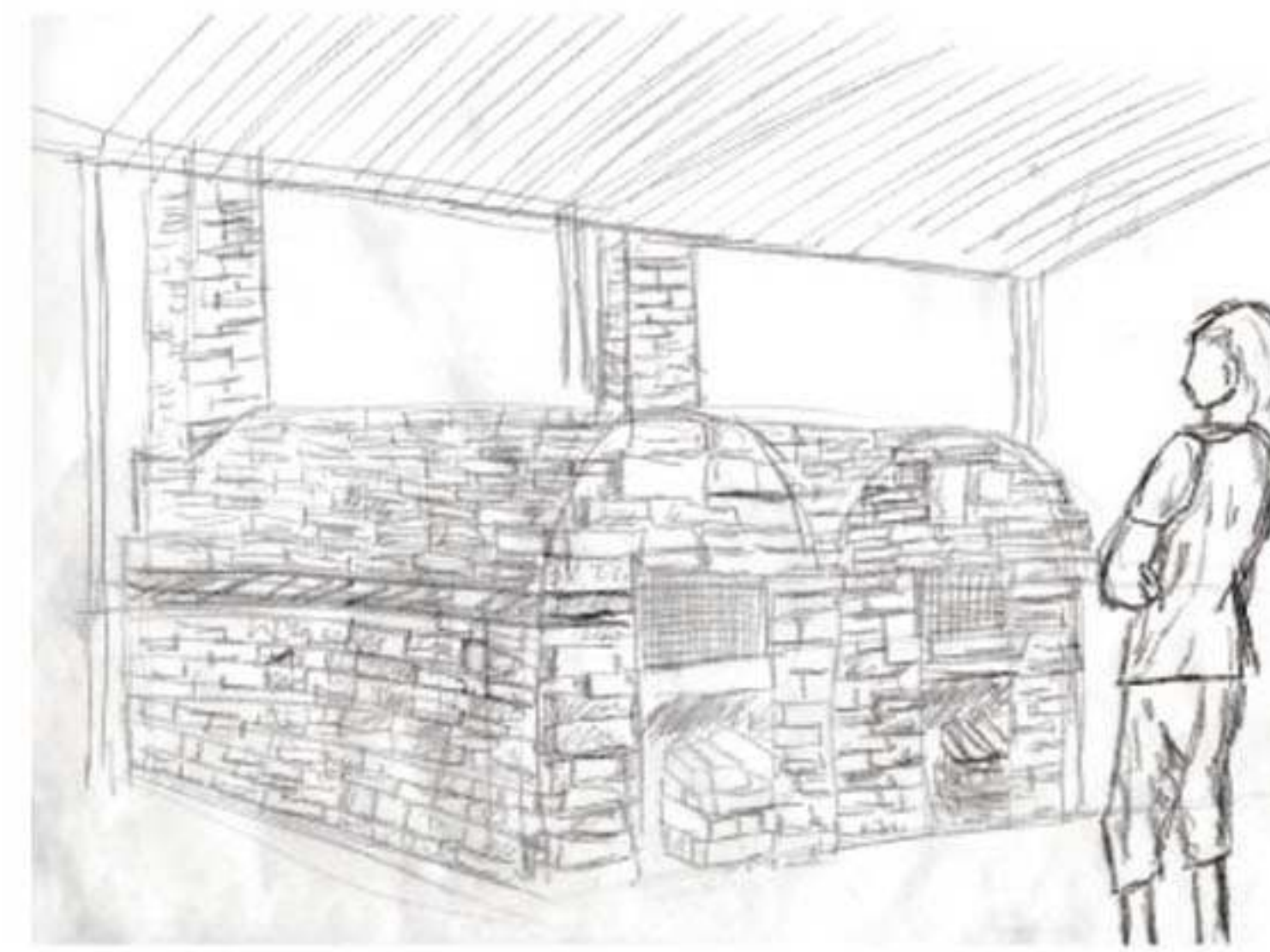
薪窯前風景



作陶

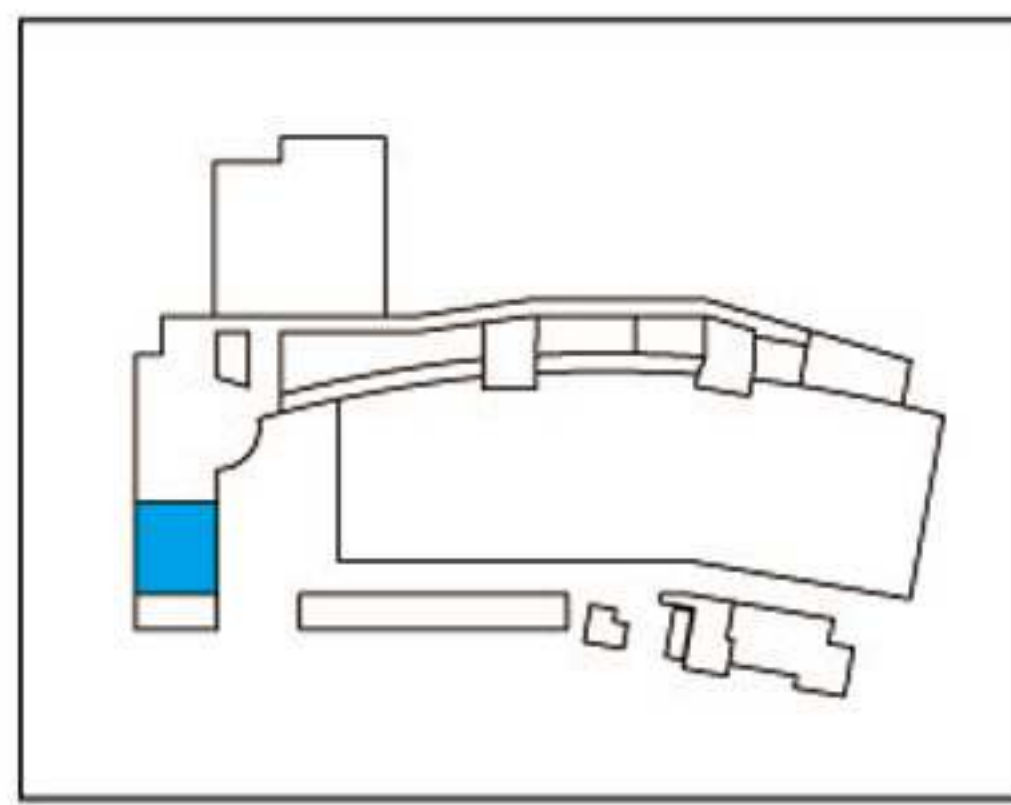
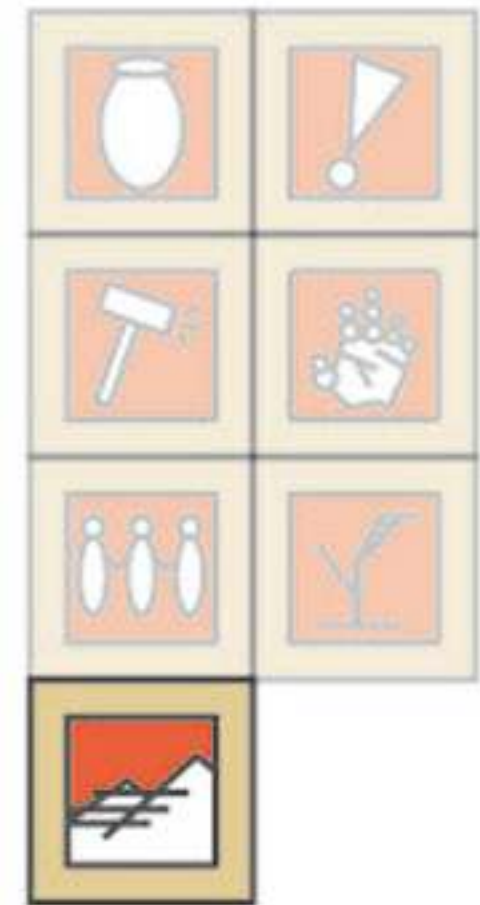


薪割り

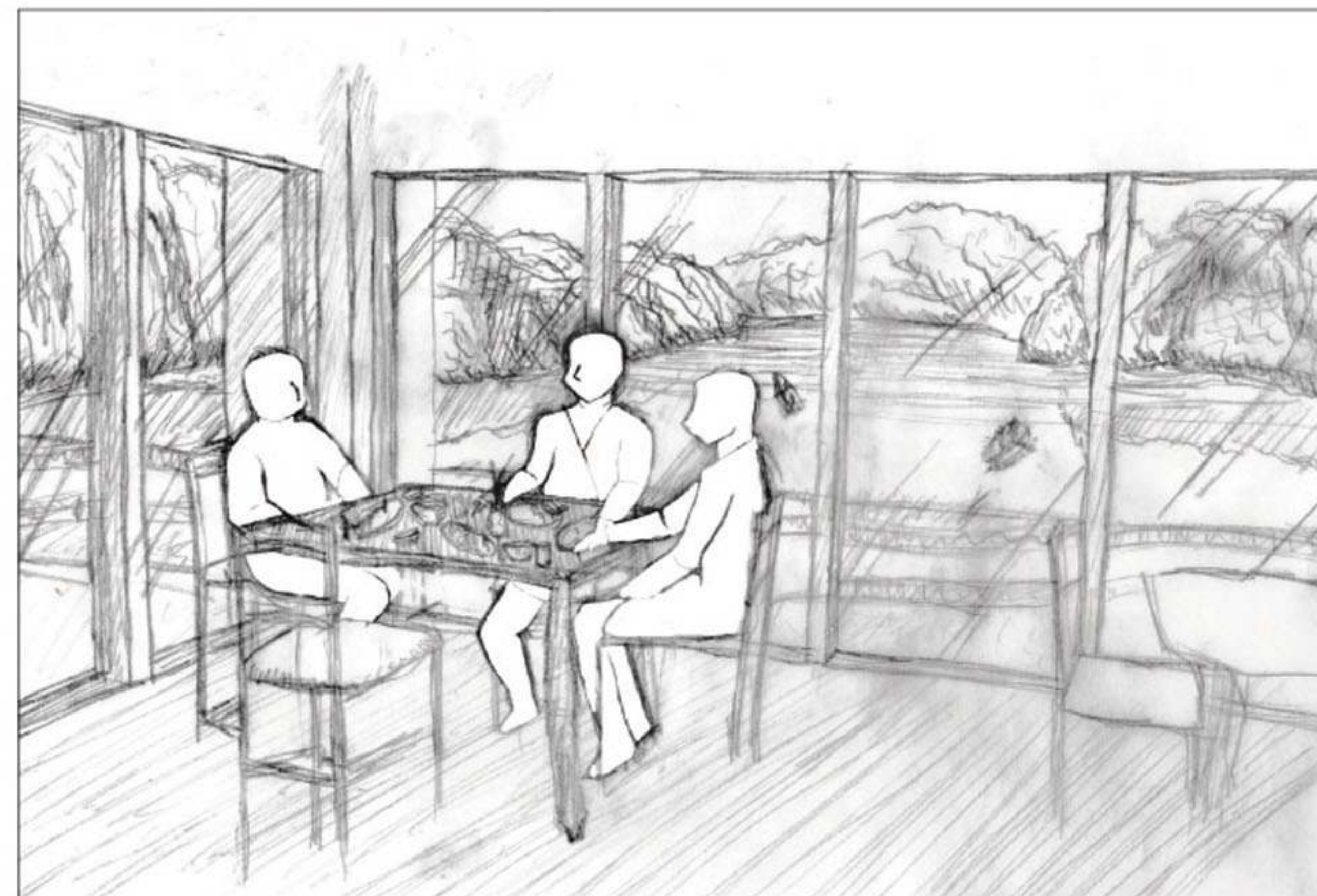


薪窯

■眺めの良いレストランで食事

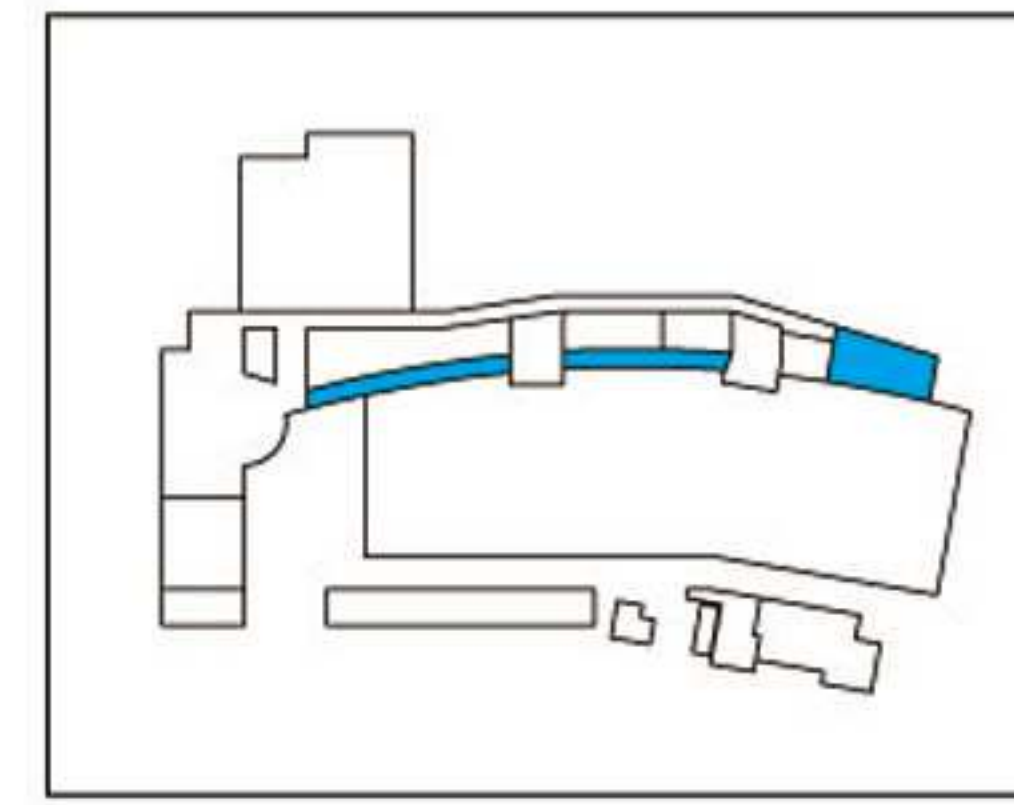


美術館棟の二階、池のレベルにはレストランがあり池の景色と津市街の眺望を楽しみながら食事することができる。使用する食器は陶器製である。

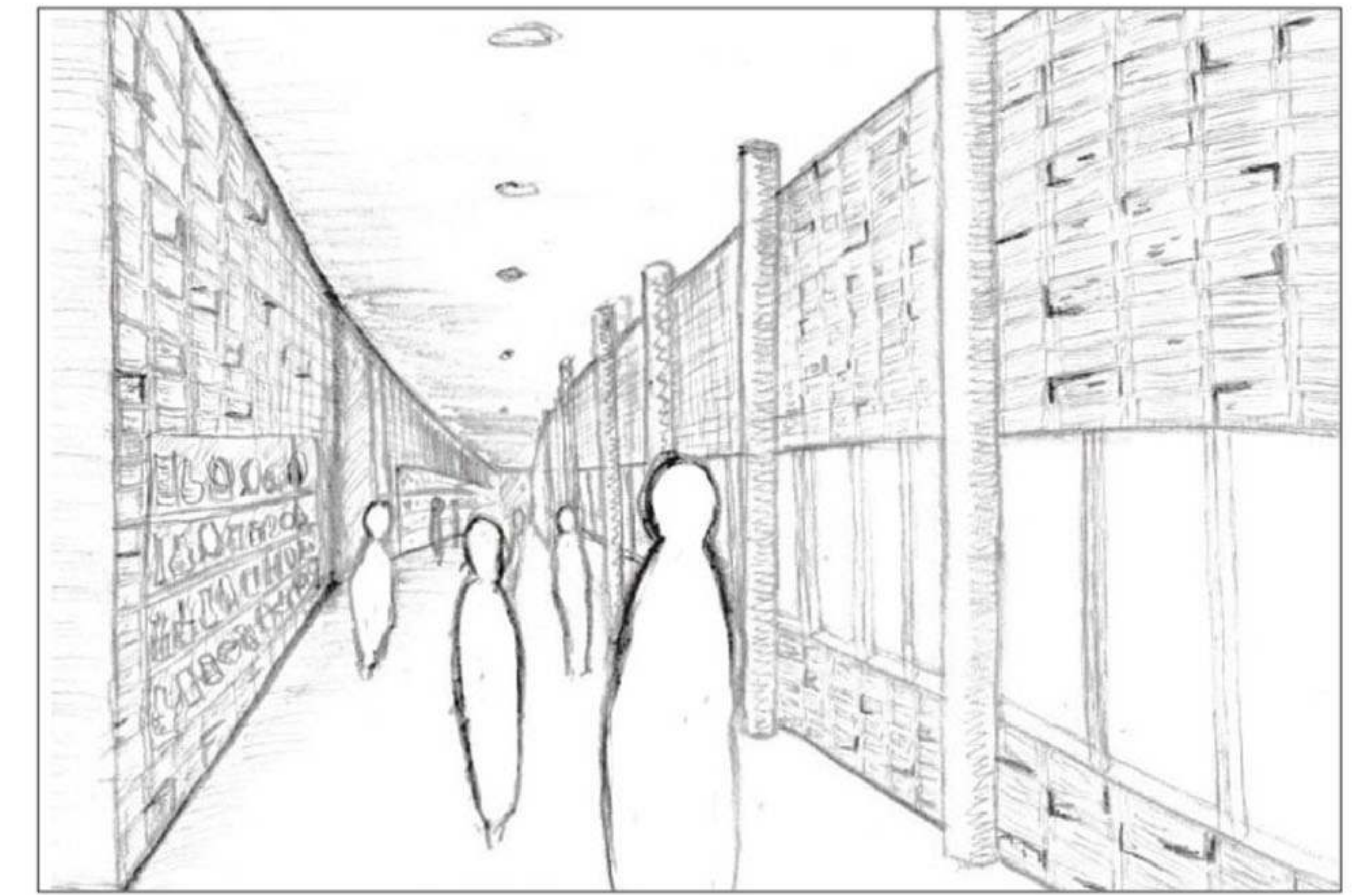


レストラン 内観

■県民アートプロジェクト



県民が美術館を作り上げるというコンセプトのもと、県民による企画委員会を立ち上げ企画から展示までを行うアートプロジェクトである。費用は本施設がもち、出来上がった作品は県民展示ブース、美術館内壁面、屋外展示エリアに展示する。作品数は徐々に増えていき、そして県民が美術館を成長させていくのである。



美術館廊下壁面展示



企画

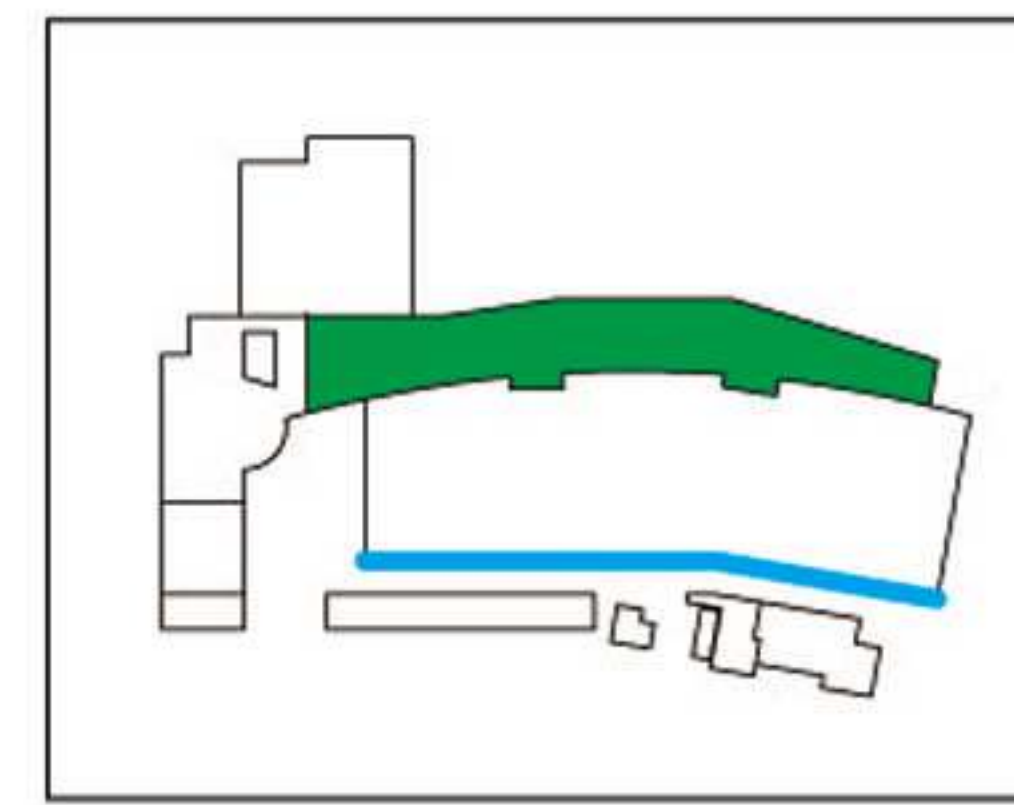


作成



展示

■手形タイル



県内の小学校の卒業の際に記念として陶土板に手形を押し体験教室の西に位置するの登り窯で焼き、手形タイルを作成する。出来上がったタイルは本施設の入り口から美術館エントランスにいたる通路脇に順次貼っていき手形ロードを形成する。他にも、美術館屋上にオブジェとして展示していく。これにより、後年の来館時に手を合わせることで、自分の歴史を感じることができる。管理及び配置は学芸員が行い、場所の把握しておく。

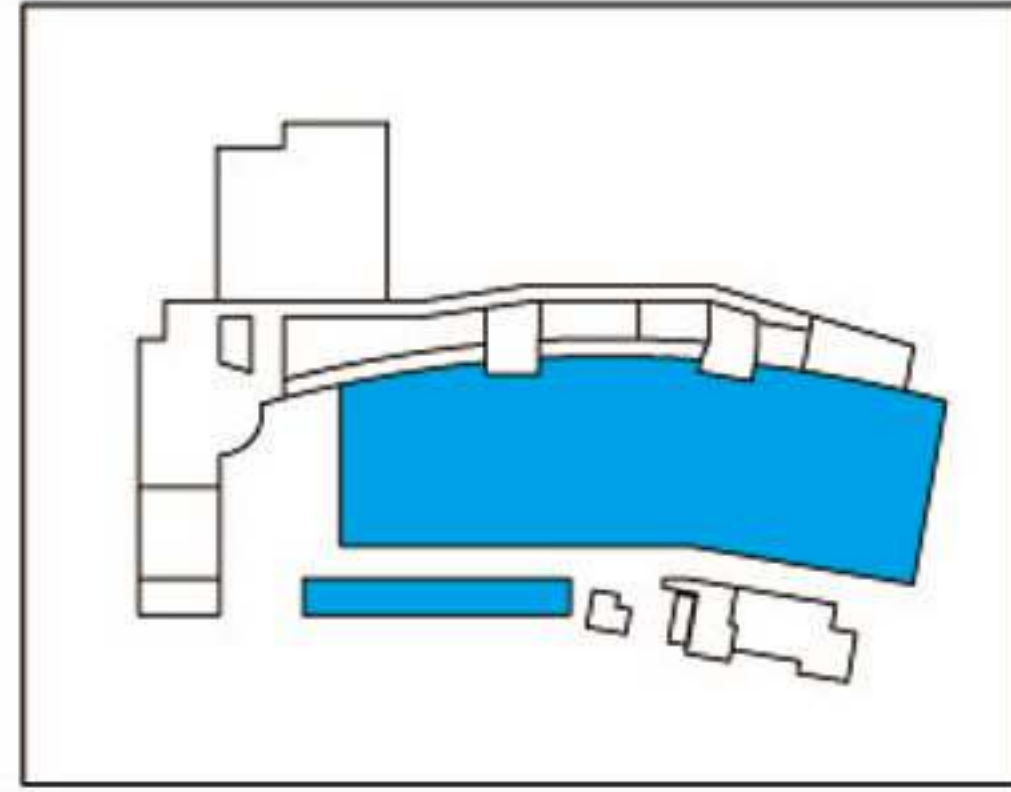


卒業の時に



大人になって

■夏には稲を、冬には麦を



美術館と交流センターの間にある田んぼは、
県民が管理する。田植えから収穫まで県民参加で行われ、
収穫した後、美術館エントランス前広場で自分たちが
育てた米を収穫後の田んぼを見ながら味わう。
秋以降は二毛作として麦を育てる。



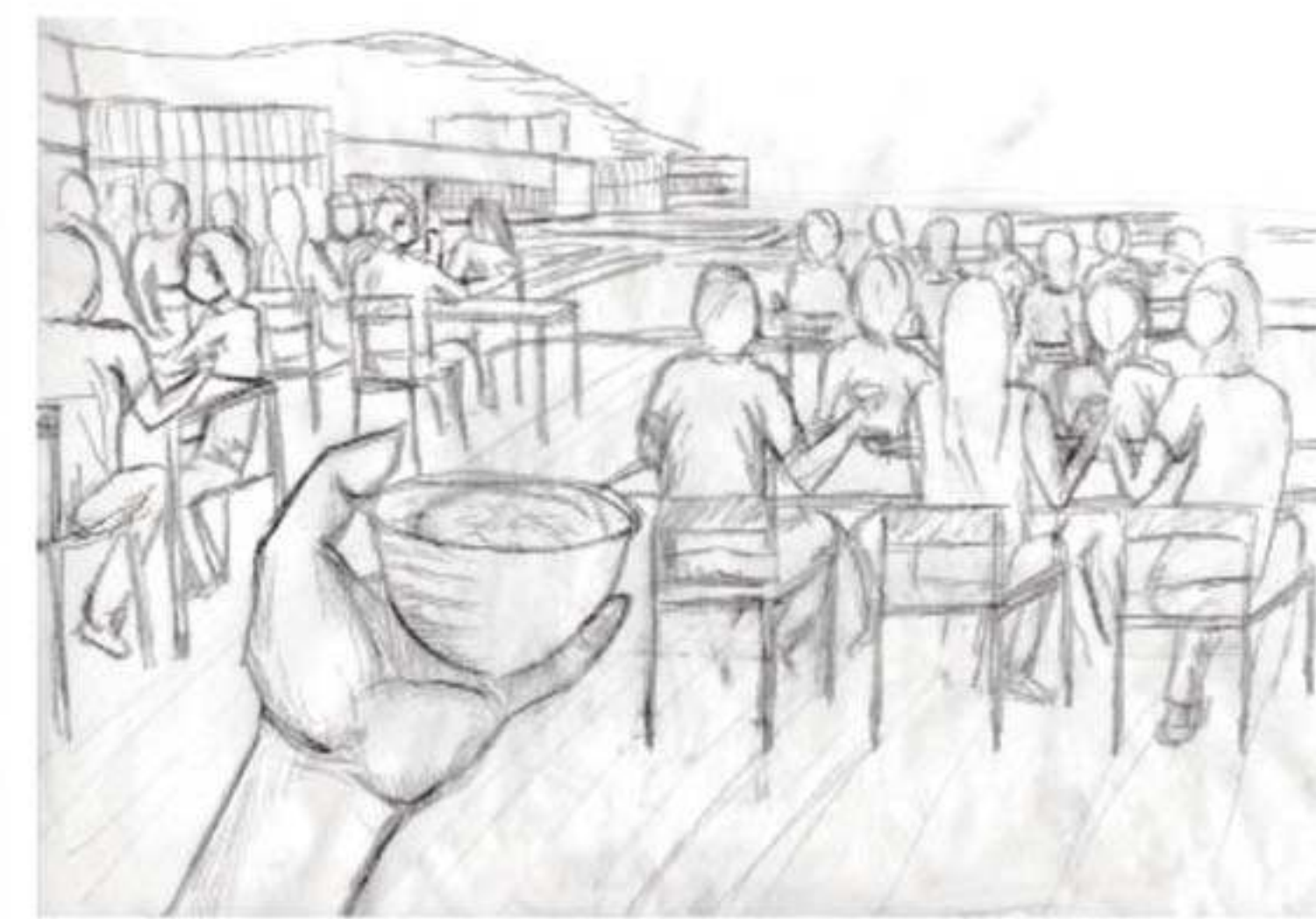
麦の穂を触り季節を感じる



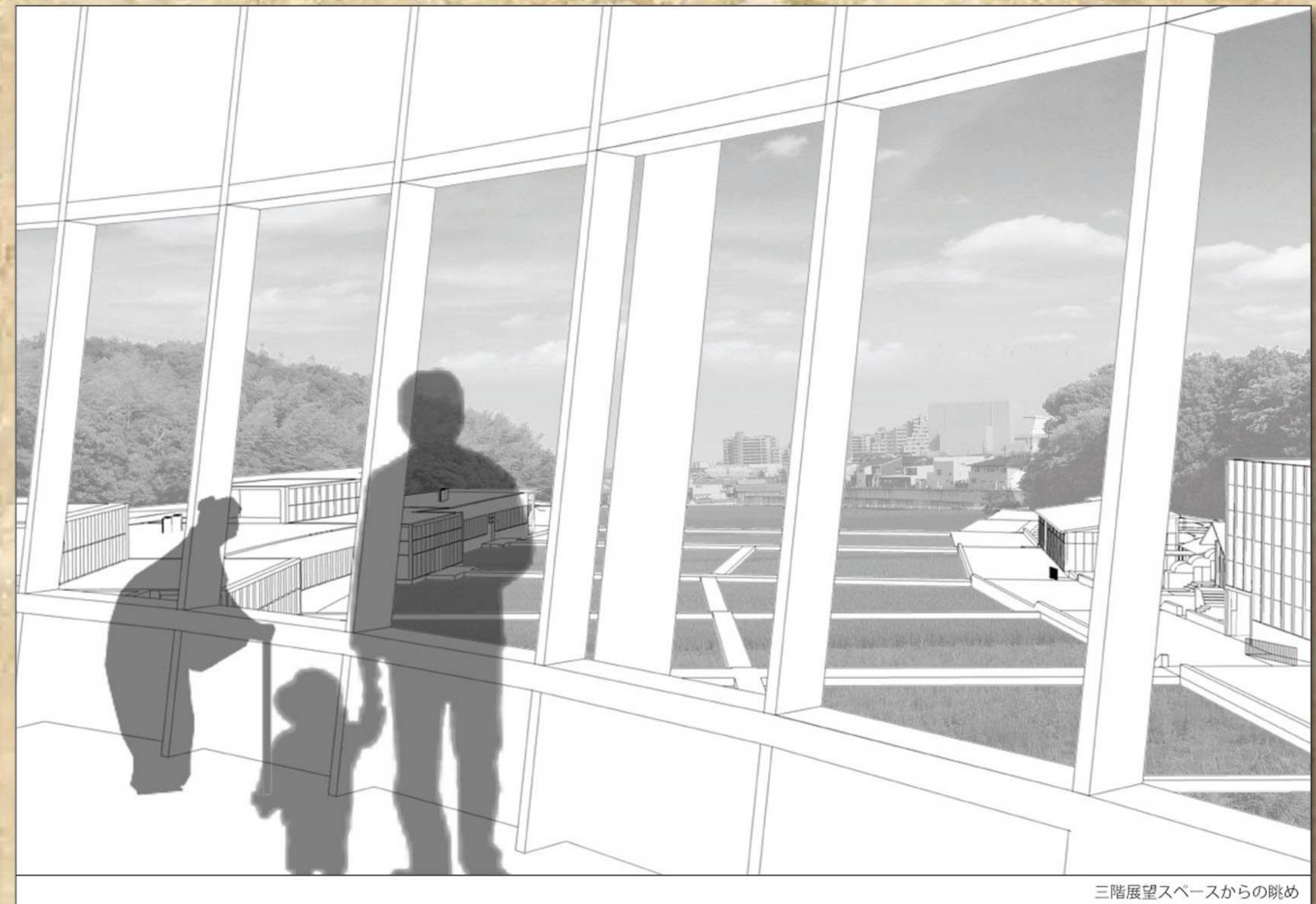
みんなで田植え



刈り入れの時期

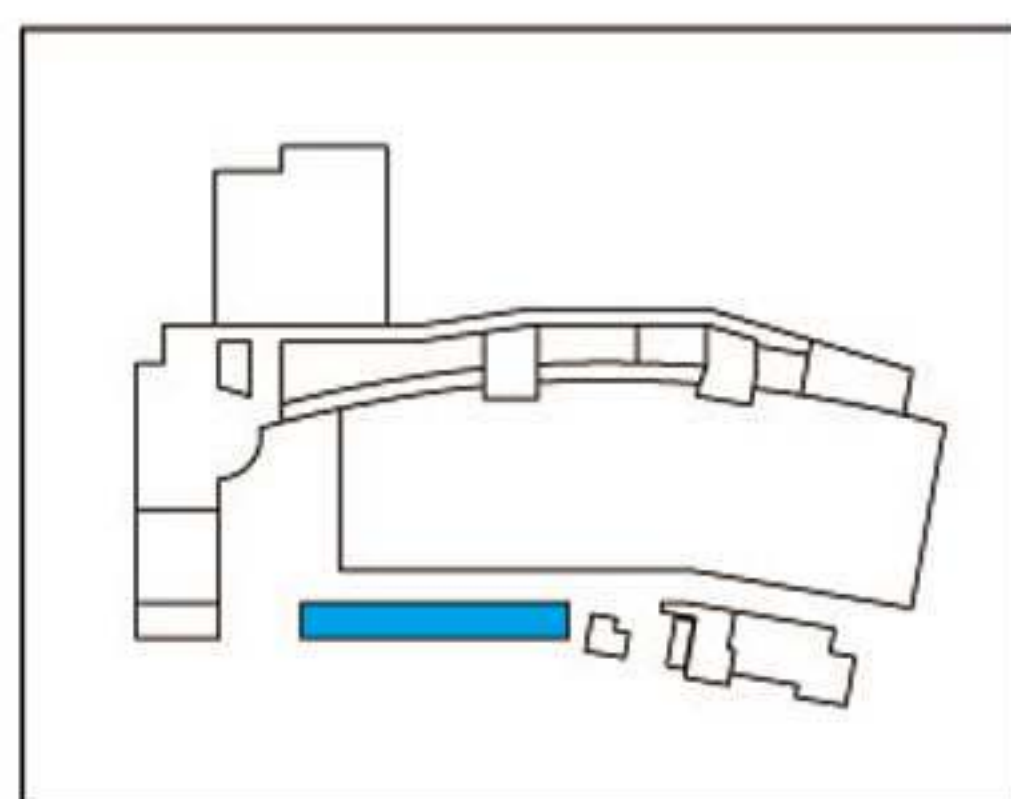


収穫した米を自作陶器で食べる

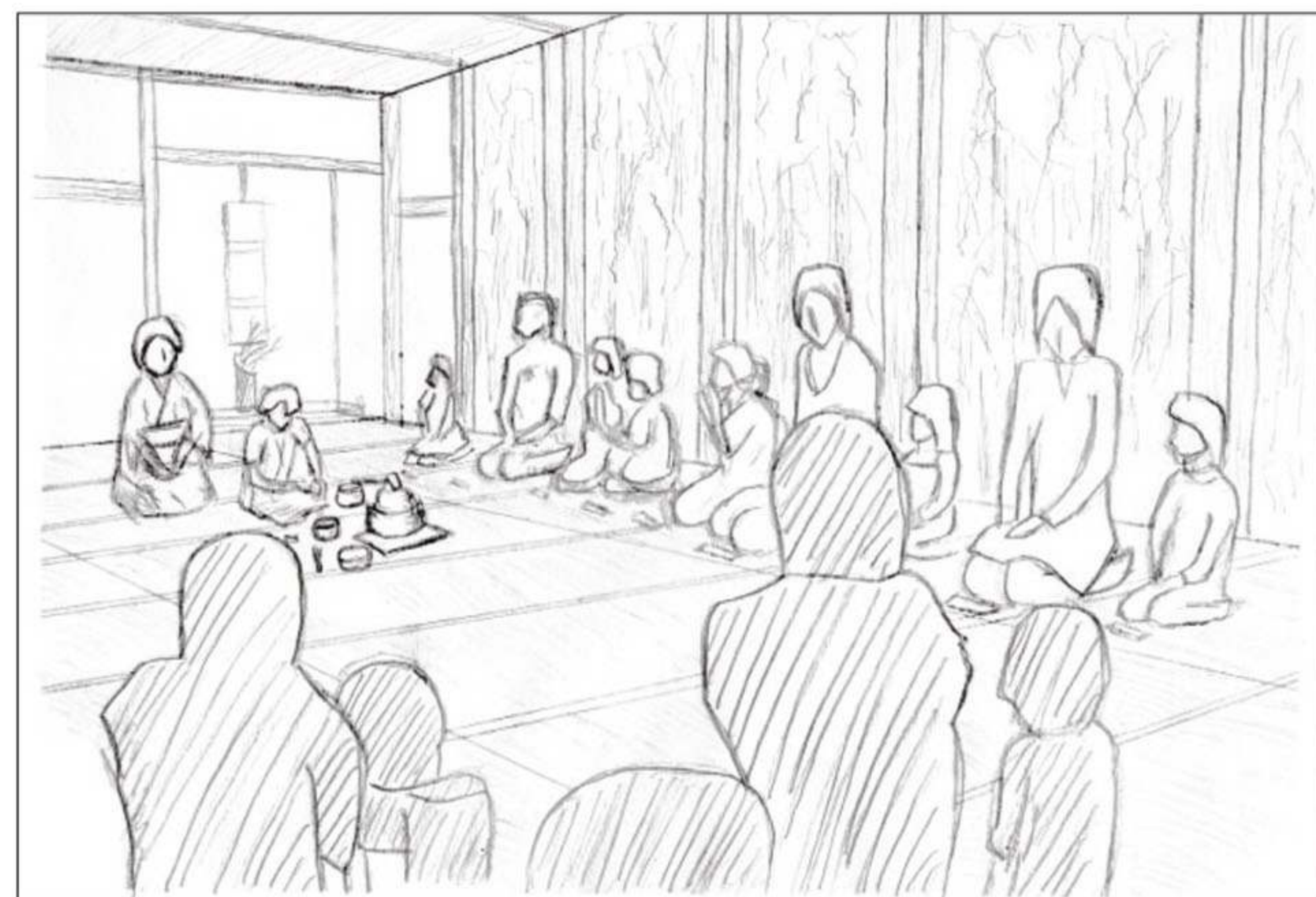


三階展望スペースからの眺め

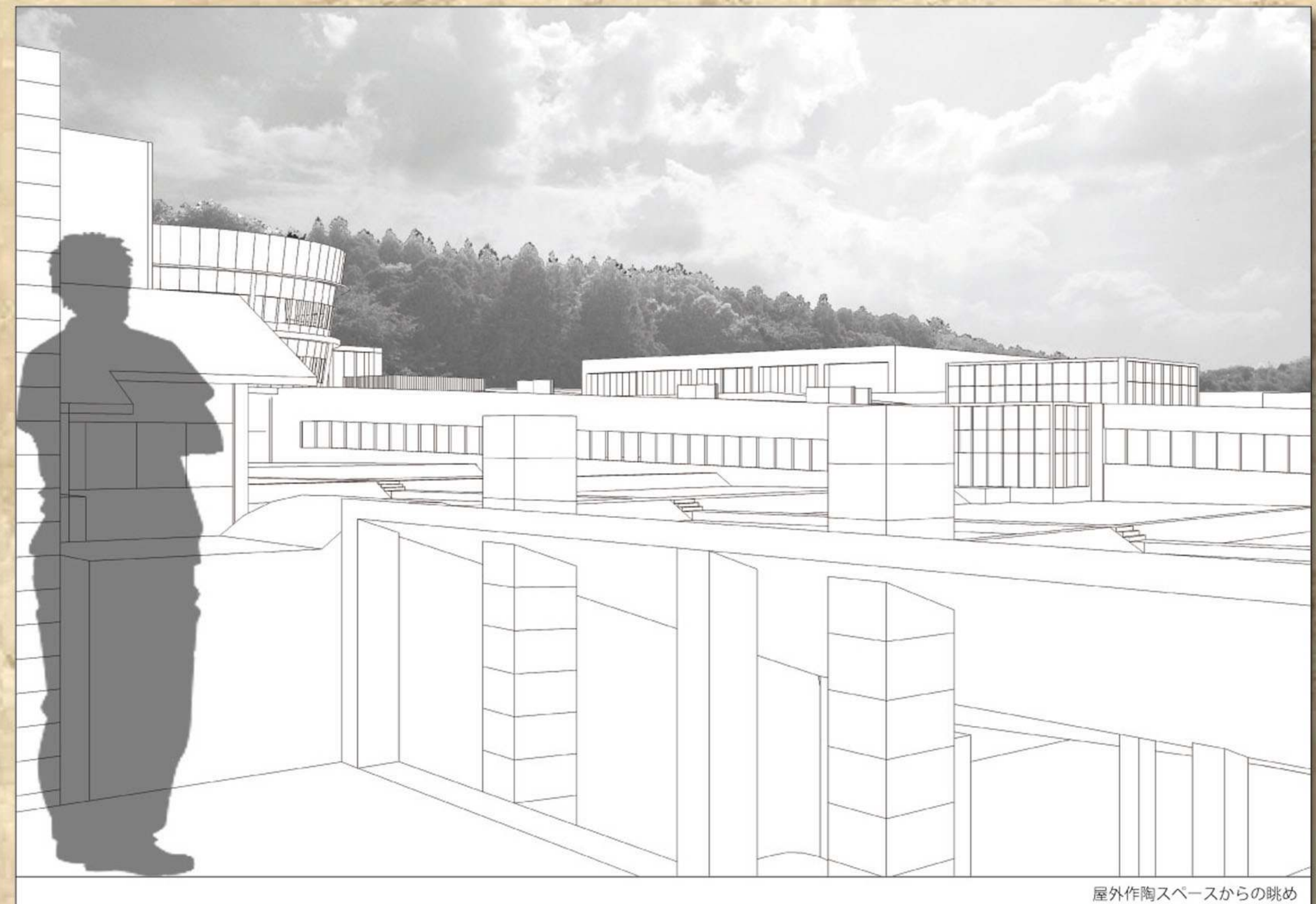
■自作陶器を使って茶道体験



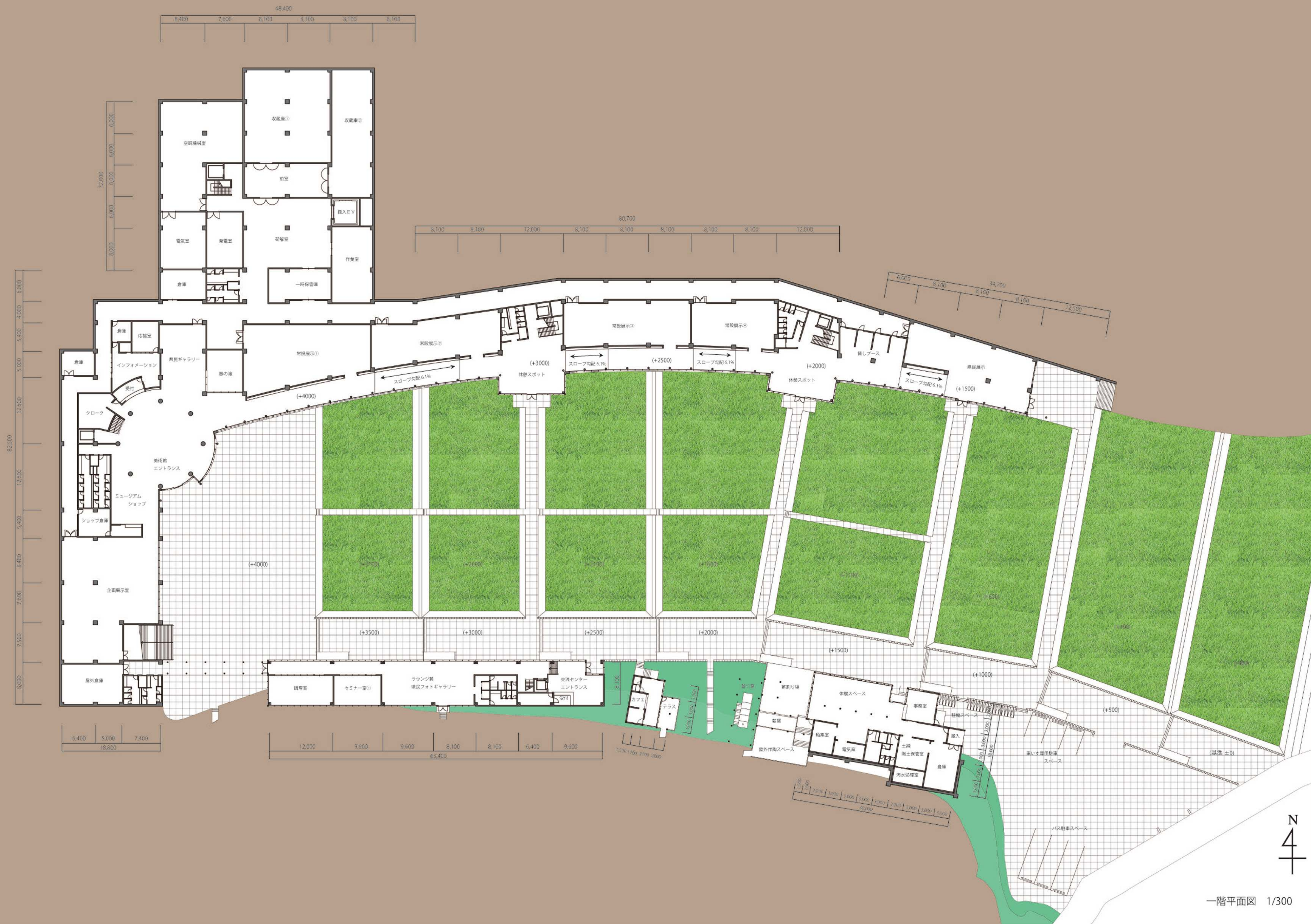
交流センターでは、広々とした和室があり茶道教室
や華道教室を開くことができる。背後に山の自然を
感じつつ諸活動を楽しむ。

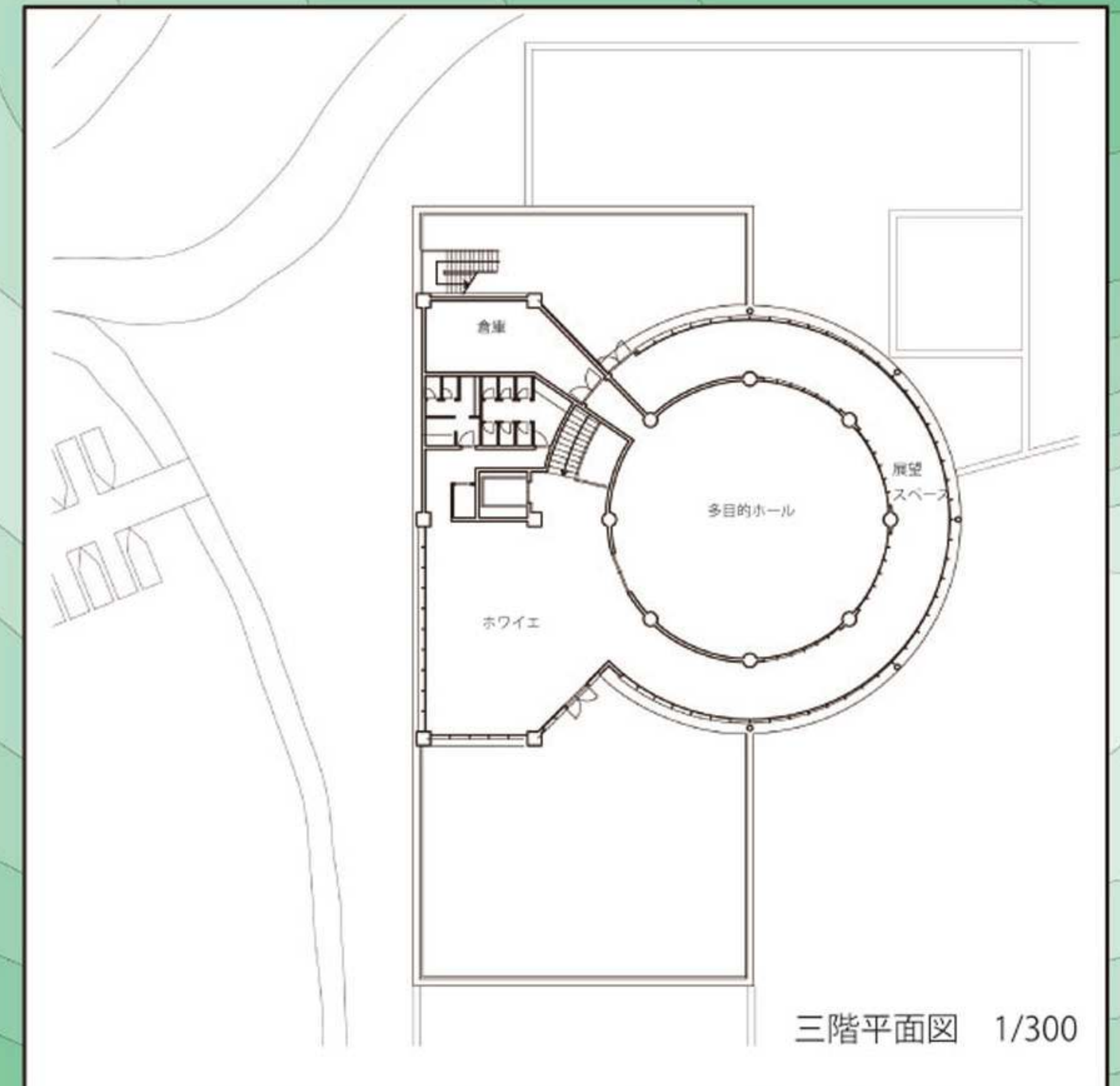


親子茶道教室風景

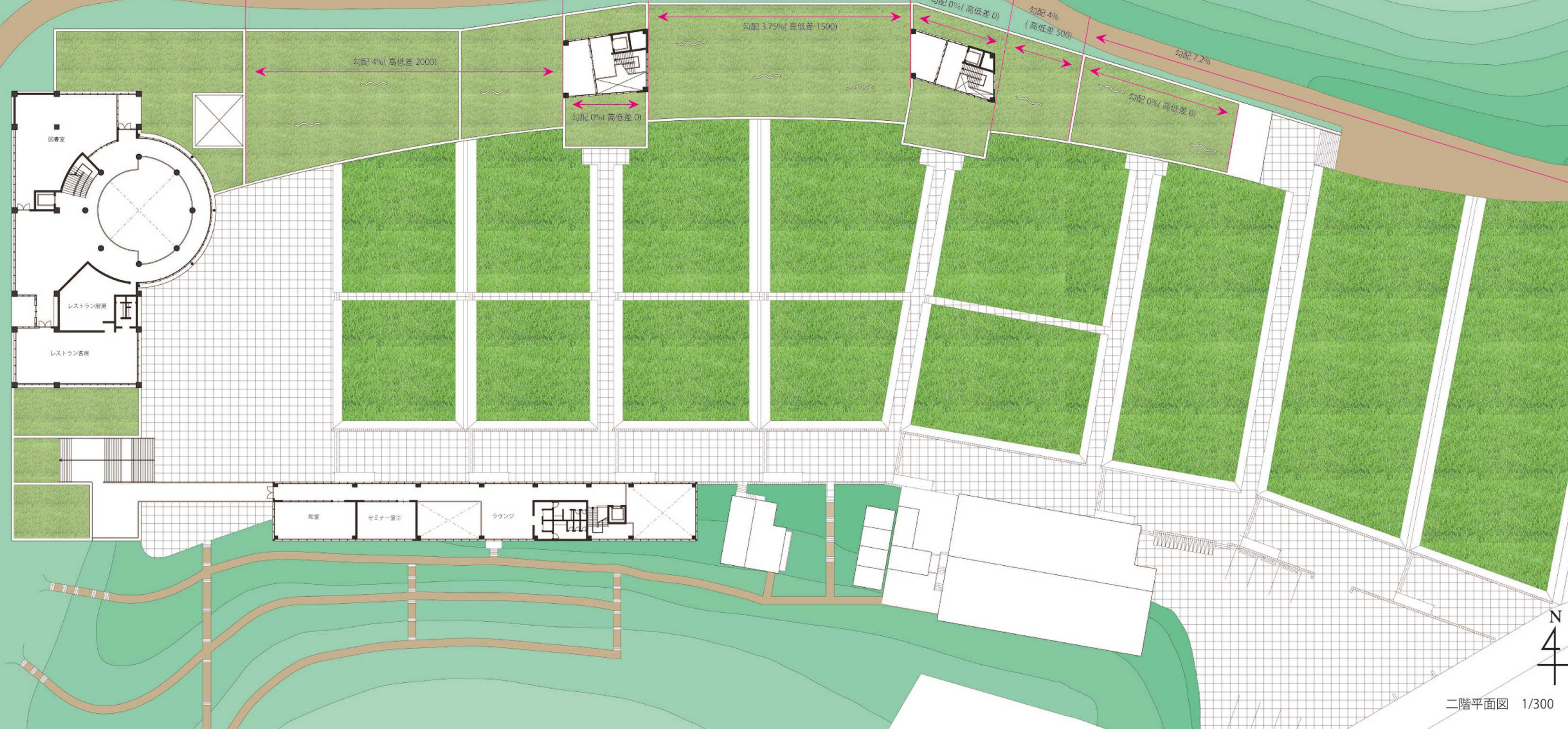


屋外作陶スペースからの眺め

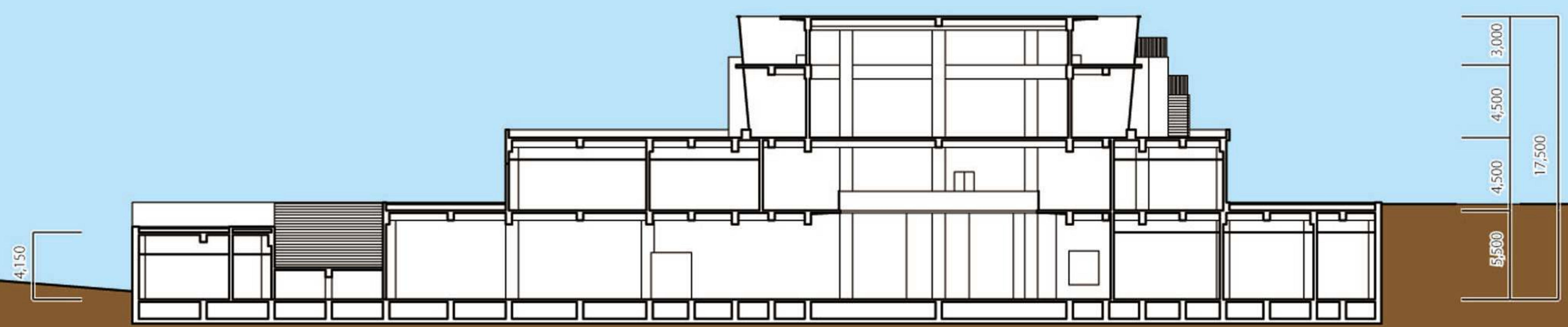
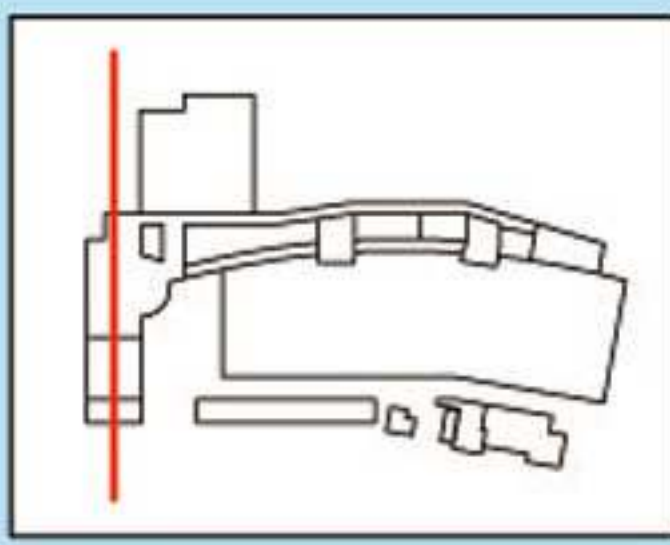




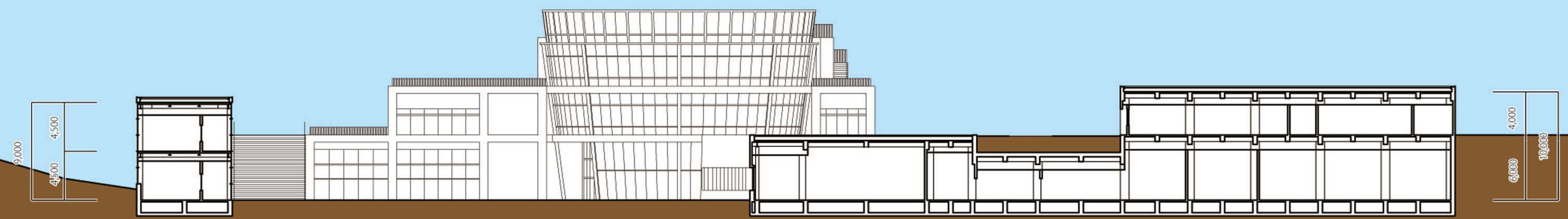
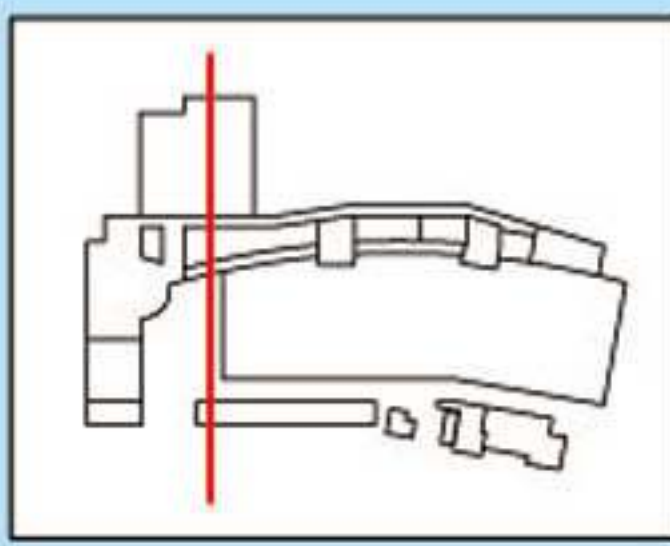
三階平面図 1/300



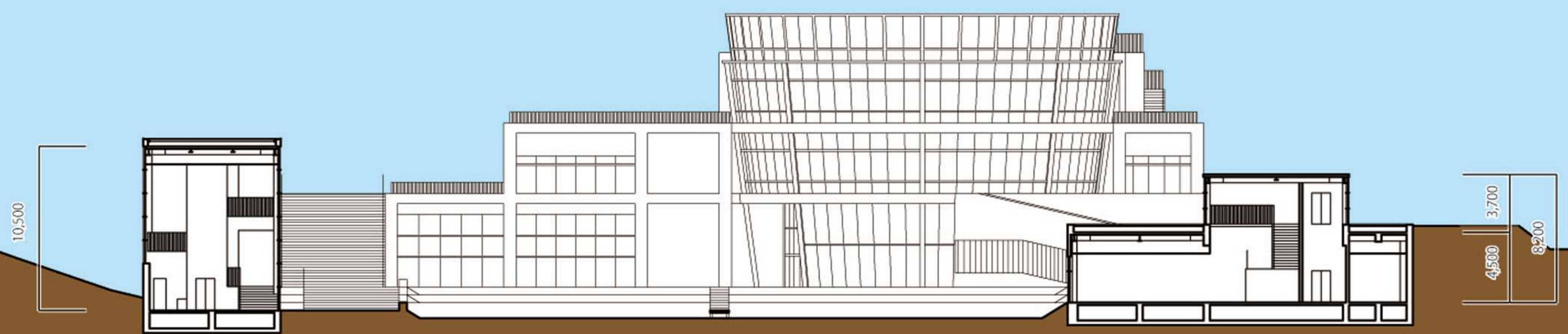
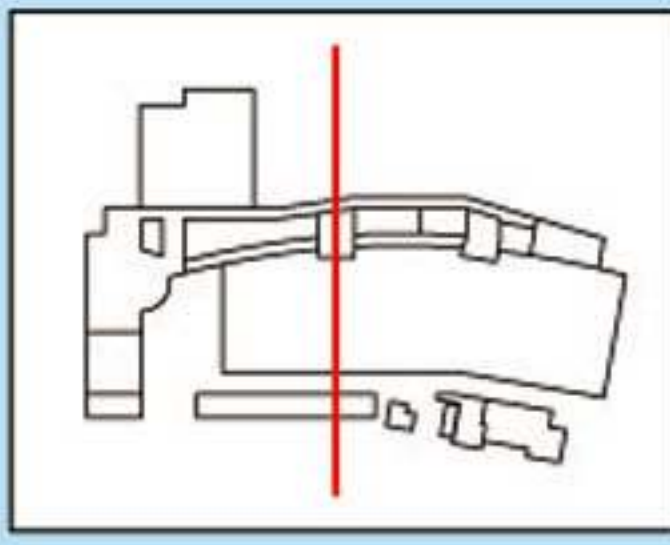
二階平面図 1/300



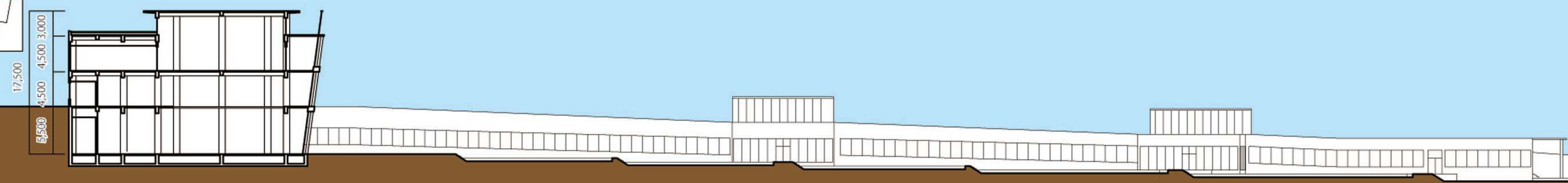
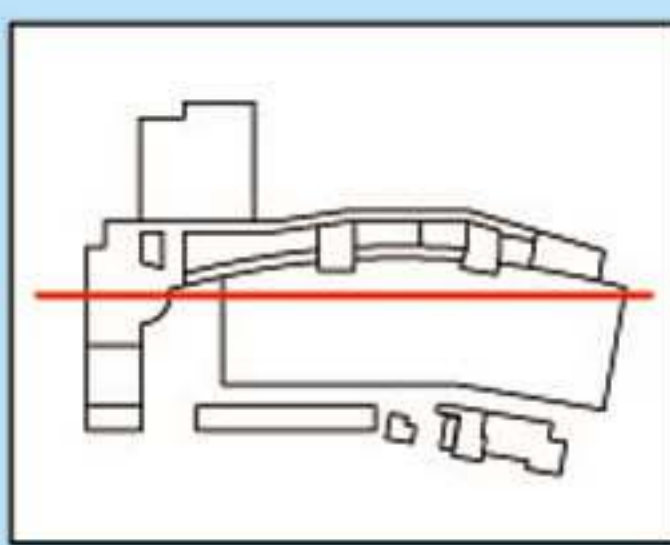
断面图 1/200



断面图 1/200



断面图 1/200



断面图 1/300

